

# 通信



1974 → 2020



Case Study

1

Shinohara Kazuo

1924 ↓ 2020



Case Study

2

Shirai Seiichi



Case Study

3

Motono Seigo



Case Study

4

Kigo Shichiro

1937 ↓ 2020

1927 ↓ 2020

# 特集

Special  
Feature  
Transforming  
Houses

# 変容する

# 住宅たち



写真/傍高利浩(建築)、提供/ニッタ(人物)

Case Study

3

1924

2020



Motono Seigo

写真/桑田瑞穂(建築)、所蔵/個人蔵(人物)

Kigo Shichiro



Case Study

4

1927

2020



# する住宅たち

古くてよい住宅を継承する機会に恵まれたら、  
 建てられた当初の考えを尊重して、やはり住まいとして引き継ぎたいと思うだろう。  
 だがそれが難しいケースもある。  
 たとえば戦前の大邸宅や気鋭のコンセプトでつくられた住宅を引き継いでも、  
 それを簡単に住みこなせる人は多くはない。  
 用途を変えるなど、新たな所有者やそのときの状況に合わせた生かし方があるはずだ。  
 しかしそれでも住宅であったことをなかつたことにはしたくない。  
 変容する住宅たちは、その葛藤のなかで時には揺れながらも、  
 住宅遺産を確かに次代につないでいる。

設計	篠原一男		4
設計	白井晟一	改修 吉野 弘	12
設計	本野精吾		22
設計	木子七郎	改修 竹中工務店	30

シリーズ			
旅のバスルーム111	文・スケッチ/浦 一也	アパートマン・クネツ(クロアチア・オトチャツ)	38
現代住宅併走47	文/藤森照信「イサム家」	設計/イサム・ノグチ+山本忠司	40
最新水まわり物語53	宮島口旅客ターミナル		46
新商品開発物語	システムキッチン「THE CRASSO」		50
News File	TOTO News, Cera Trading News, Book, Exhibition		54

表紙/「本野精吾邸」の古写真およびケーススタディ4点。  
 所蔵(古写真)/京都工芸繊維大学美術工芸資料館(AN.5343-140)  
 編集制作/伏見編集室 デザイン/岡本一宣デザイン事務所 印刷/ゼネラルアサヒ

写真/藤塚光政 (建築)、写真/白井彪弼 (人物)

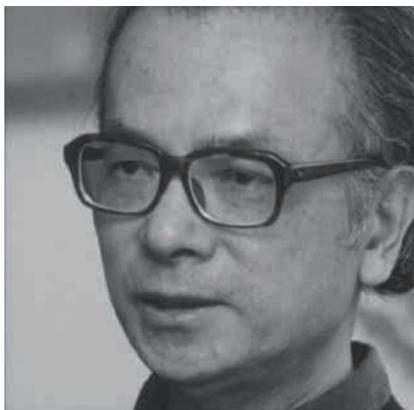


Case Study

①

1974

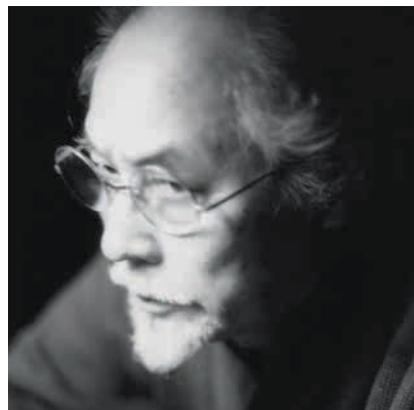
2020



Shinohara Kazuo

写真/川辺明伸 (建築)、提供/東京工業大学奥山信一研究室 (人物)

Shirai Seiichi



Case Study

②

1937

2020



# 特集 変容

Special Feature  
Transforming Houses

## TOTO 通信

Toward a Creative  
Architectural Scene  
Number 525  
Autumn 2020

- ケーススタディ1 別荘のままでありつつも、開かれていく住宅 「谷川さんの住宅」
- ケーススタディ2 新たに茶室を備えた洋館 「かんきそう やむあん  
「歡歸荘+也無庵」
- ケーススタディ3 建築設計事務所になったコンクリートブロックの家 「本野精吾邸  
(現・木村松本建築設計事務所)」
- ケーススタディ4 企業の会員制オフィスになった都心の大邸宅 「山口萬吉邸(現・九段ハウス)」

『TOTO通信』は  
インターネットでも  
ご覧いただけます。

→ <https://jp.toto.com/tototsushin>





Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

1

Shinohara Kazuo



1974

2020



特集  
変容する  
住宅たち

ケーススタディ／1

# 別荘のままであ りつつも、開 かれていく住宅

Toyama Masamichi

作品 谷川さんの住宅

設計

## 篠原一男

床が斜めで地面のままの土間で知られている篠原一男設計の「谷川さんの住宅」。谷川俊太郎さんの別荘だったが、美術作品のように大切に継承されてきた。新たな住人の手にわたり、その空間体験をシェアできるようにオープンに。

取材・文／杉前政樹 写真／川辺明伸

谷川さんの  
住宅の  
新たな住人

### 遠山正道

とおやま・まさみち

1962年東京都生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、85年三菱商事入社。2000年スマイルズを設立。現在、「Soup Stock Tokyo」のほか「giraffe」「PASS THE BATON」「100本のスプーン」「The Chain Museum」などを展開。

床が傾斜し、さらに土のままの状態の大きな土間空間。谷川さんは「夏の空間」と表現していた。図面では広間（夏）。

## 個人の別荘か オープンに使うか

——谷川俊太郎さんの別荘を入手されたきっかけを教えてください。

遠山 昔から私は建築に興味がありまして、代官山のヒルサイドテラスに30年ほど前から住まわせてもらっています。2年ほど前、ギャラリストの吉井仁実さんと食事をして、いるときに篠原一男の建築の話題になりましてね。吉井さんが、「軽井沢の谷川さんの別荘なら、うちがもってますよ」と。「ええっ、まじですか」と驚いたのですが、吉井さんのお父さまは銀座の吉井画廊の吉井長三さんで、小淵沢の清春芸術村では、谷口吉生さんや安藤忠雄さんに設計を依頼されていますから、篠原建築のオーナーであつても不思議ではありません。私があつけにとられているのを見て、「ほしいですか？」という流れになりました。まったくそんな予定はなかったのですが、よいものを欲する想いにおされ、2019年に個人の名義で取得いたしました。

——費用はどのぐらいで、どのように使うことを想定されていましたか。

遠山 お値段はそれなりに（周辺の坪単価の約2倍）しましたし、個人でもつだけはこの土間空間がもつたいないのですので、私が株主で代表取締役を務める（The Chain Museum）で運営し、（Tanikawa House）と呼んでいます。昨年8月には谷川俊太郎さんと息子さんとピアニストの谷川賢作さんをお招きして、詩の朗読と演奏のお披露目を、10月にはスイス人建築家クリスチャン・ケレッツ氏の講演会と、少人数でのお茶会を開いています。どの程度

写真/多木浩二



Old Photograph

画面を斜めに分割したような多木浩二による竣工当初のワンショット。篠原一男に関心をもった多木は、篠原の建築を撮影しつづけていた。多木の写真によって、篠原建築のイメージが築かれてきたともいえる。

この住宅は神格化され、「彫刻」のような芸術作品として扱われてきました。

Torayama Masamichi



外部にオープンにするのが悩みどころでしたが、美術館のような展示はせずに、基本的には個人の別荘として使いながら、現代音楽とか朗読などのイベントを年に2、3回ぐらい開催できればいいなと思っっています。

## 神格化されたまま 凍結された姿

——取得にあたって、修繕や改装はどれぐらい必要でしたか。

遠山 この別荘は、谷川俊太郎さんが篠原一男に一篇の詩を書いて設計を依頼したことで知られています。自宅のどこかにしまつてあるのですが、かなり難解な詩で、「汎

とガラスの一部を補修した程度で、内部はまったく手を入れずにオリジナルのままです。

——使い勝手がよいようにリフォームすることは考えませんでしたか。

遠山 最初はそれも少しは念頭にありましたが。私は若い建築家と飲む機会がわりとよくあるので、石上純也さんを連れて行って感想を聞いてみたら、「半分はすばらしかったけれど、半分は残念でした」と言うんです。やはり40年以上誰も住んでいない家ですから、誰かがそこで寝て、目覚める行為があつてほしかったと。長谷川豪さんにも活用するための周辺整備の相談をもちかけてみましたが、うーんと考え込んでしまつて、話がまったく前に進まない。

——単なる個人の別荘にとどまらない使い方ができないかと、気鋭の建築家の意見を聞いてみたら、物事はそうは進まなかったのですね。

遠山 古い住宅をそのまま残すのは大変なことなんです。というの、うちのじいさんと伯父さん、親戚内に吉村順三設計の家が3軒あったのですが、すべてつぶされて今はありません。用途が変わっても残せるだけではないことですが、やはり建築家としてはオリジナルを尊重したいのでしょう。長谷川さんも、別荘として私が住むのが一番よいと言いました。

それで昨年からちよくちよく通っていますが、安易に家具を選ぶわけにもいかず、なるべくモノを持ち込まないようにしています。食器も大倉陶園のティーカップと江戸時代の茶碗だけ。かれこれ通算で20泊ほど滞在しているのに、いまだにマットと寝袋で寝ています。扇風機ひとつ買うのにも

広間(夏)。方杖のついた三股の柱が立っている。床の土にはこれまで訪れた人びとのたくさんの靴の跡が残っている。右手奥に広間(冬)に至る扉。

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

1

Shinohara Kazuo



→広間(夏)。正面中央に入口の扉。土間に置かれている脚立やベンチは、竣工当時からのオリジナル。敷き詰められている土は、さらさらと乾燥した火山灰。



## 良質な建築を シェアする試み

「谷川さんの住宅」は遠山正道さんが個人で所有しているが、遠山さんが代表を務めるThe Chain Museumで運営し、イベントが実施されている。



建築家の  
クリスチャン・ケレツ氏  
による講演会



谷川俊太郎さん  
による  
詩の朗読会



2階の和室で  
催された少人数での  
お茶会

ネットで何時間も検索して、悶絶しながら選んでいるんですよ。週末にひとりであらと来て、地元で買った野菜と肉でシンプルな料理をつくり、後はひたすら作業。網戸の調整とか庭の手入れとか、やるべきことはたくさんあります。大切なものを預かっているという感じがして、気軽にSNSに写真をアップするような気分にならない。ここではむしろ、ひとりで静かにいるのが非常に心地よいんです。

### 良質な建築を

### シェアする

### コミュニティの構想

——確かに、仲間を呼んでにぎやかに楽しむ感じではなさそうですね。

遠山 そうこうしているうちに新型コロナウィルスで県外移動自粛となって、2カ月間は軽井沢に行けなくなりました。その代わりに、パソコンとネット回線さえあればどこでも仕事ができるようになって、働き方とか、家族との時間とか「しあわせ」の意味を考え直すきっかけができましたよね。私もそのあいだにいろんな気づきがあって、

住んでこそ住宅  
かもしれないが、今の私にとって  
この土間は「表現の場」です。



Toyama Masamichi

この夏から「新種のイミグレーションズ」という会員制のコミュニティを始めたんです。月1万円の会費で、まずは200人ぐらを集めて、会費の半分は維持管理にまわし、残りはインフラ設備に投資します。都心のヴィンテージ物件に小さなオフィスを借りて、会員はそこで「暮らすようにして働く」ことができる。いわば1万円の「税金を払って、小さな国の「住民」になるという仕組みです。

——なぜそのようなコミュニティを始めようと思ったのでしょうか？

遠山 別荘といえば、週末にみんなで集ま

ってバーベキューして、という使い方はコロナで一変しました。いっどこで働いてもいいので、平日の利用は進むでしょうし、そもそも週末とか平日という概念すらなくなるかもしれません。都心のオフィスは小さくていいから、その代わりにたとえば代官山ヒルサイドテラスで働けたらすてきじゃないですか。南青山のフロム・ファーストや原宿のコープオリンピアでもいい。良質な建築をシェアすることで、住民たちがそれぞれの「しあわせ」を感じられる場所を安く提供すれば、みんながハッピーになるのではないかと。私はこれを「しあわせ

のサブスク(定期購入)」と名づけて少しづつ会員の数を増やし、この別荘も、住民が利用できるようにして、ここで静かに暮らす体験を共有していこうと思っています。

——では最後に、実際に住んでみて、土間空間などの篠原一男の建築をどのように感じていますか。

遠山 この土間はむき出しの地面、いわば「地球の表面」に、建築の最低限の要素である「柱」と「屋根」が空から降りてきたような構成で、そのプリミティブさにまずひかれますね。谷川さんの詩に「教会」という言葉がありました。確かに人を安易に寄せ付けない空間の力があって、なんとなくまだ距離感がつかめずにいます。ようやくコードレスのスピーカーで音楽をならしてみただけで、空間の新たな使い方を考えるまでにはたどり着けず、遠巻きに過ごしているという感じですね。住んでこそその住宅という言葉がありますが、この土間を「表現の場」にするというのが、今までのところの私の解釈。ここにさまざまな住民が訪れることで、これからのような解釈が生まれるのか。それがとても楽しみです。

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

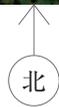


Shinohara Kazuo





↑背面外観。大屋根は銀色鉄板によって葺かれている。



↑正面外観。中央に広間(夏)に至る入口の扉。



外観全景。手前に物置きの小屋、奥に「谷川さんの住宅」がある。北軽井沢の鬱蒼とした森林のなかに立っている。

↓東側の側面外観。地面の傾斜に呼応するように、壁板も斜めに張られている。

↓西側の側面外観。屋根は直角に曲がる矩折りの切妻造。





↑2階の和室から、広間(夏)の天井を見る。

←2階の9畳の和室。正面に造り付けの机。

→広間(冬)。谷川さんが「冬の家」と呼び、キッチンやダイニングなどの生活スペースになっている。

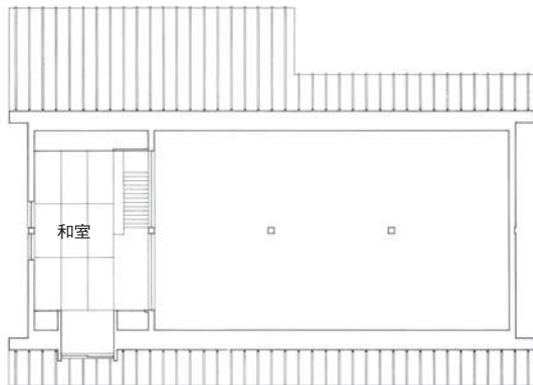


## 平面図



0 2 4m

1/250



2F



1F

## 建築的体験を シェアする住宅

文・杉前政樹

### 谷

川さんの住宅は、二重の「奇跡」が生んだ住宅遺産といえるのではないか。第1には、施主の谷川俊太郎氏が、篠原一男のラディカルな土間空間を受け入れたこと。そして第2には、次の持ち主がそこに美的価値を認め、いつさい手を加えずに維持するだけの経済的余裕があったこと。いかに傑作の誉れ高い住宅であっても、人が住まない家はやがて朽ちて壊される。逆に人が住む家はそれゆえに住人の都合に応じて改造され、往々にして相続で分割されてしまう。いずれにしても

原形を長年保っていくのは至難の業だが、この別荘はどちらの難題もまぬがれて40年以上前の姿をとどめており、むしろ「住み手の不在」が名作を名作たらしめているような、パラドキシカルな存在となっている。まるで音のないジョン・ケージの演奏のように。

3代目の持ち主となった遠山正道氏は、三菱商事在職時に「Soup Stock [Tokyo]」を社内ベンチャーで立ち上げ、独立後は株式会社スマイルズの代表としてユニークな活動を続けている。祖父は日興証券の創業

者・遠山元一氏。美術品の収集家としても

名高く、出身地の埼玉県川島町に建てた日本家屋は遠山記念館として一般公開され、国の重要文化財に指定されている。つまり祖父の代から美術や建築に造詣が深い「目利き」が、名作住宅を購入したわけだが、昭和や平成の時代ならばその先には「私的に閉じる」か「美術館のように公開する」の二択しかなかった。しかし遠山氏は若い建築家の意見に耳を傾け、熟考の末に、そのどちらでもない道を模索しはじめた。

実際に住んでみて初めて感じることで

きる豊かな建築的体験を、価値観を共有で

きる仲間とシェアする。遠山氏はこれを「しあわせのおすそわけ」と呼び、その規模が広がることによって、さらに次の名建築を継承していくことを目指している。「変容する住宅」が本特集のテーマだが、ここで変容しているのはハードウェアとしての住宅ではなく、家は誰かの私有物であるという、私たちの固定概念そのものなのかもしれない。

### 谷川さんの住宅

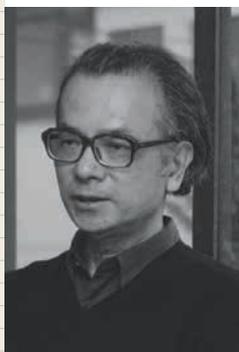


北側外観。外の地面と中の土間の傾斜が連続している。

#### 建築概要

所在地	群馬県吾妻郡
主要用途	別荘
設計	篠原一男
建築面積	161.60㎡
延床面積	185.48㎡
階数	地上2階
構造	木造
竣工年	1974年

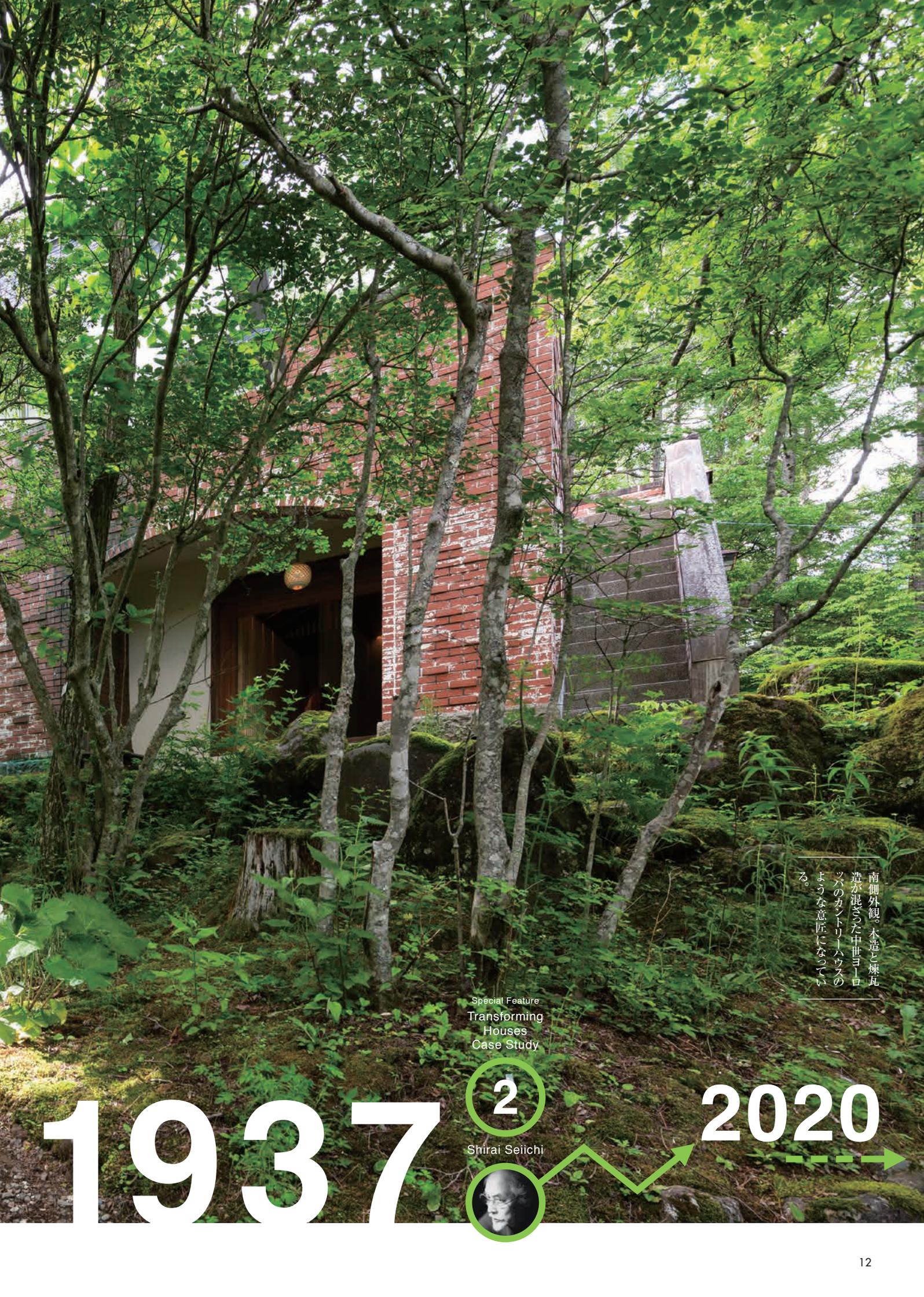
#### 略歴



篠原一男

Shinohara Kazuo

しのはら・かずお／1925年静岡県生まれ。47年東京物理学校（現・東京理科大学）卒業後、建築に転向し、東京工業大学工学部建築学科に入学。清家清に師事。53年卒業。その後、「日本建築の空間構成の研究」にて、67年工学博士号を取得。助手、助教授を経て、70年東京工業大学教授、後に名誉教授。住宅を中心に、公共建築の設計も手がける。2006年逝去。



南側外観。木造と煉瓦造が混ざった中世ヨーロッパのカントリーハウスのような意匠になっている。

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

2

Shirai Seiichi



1937

2020



特集  
変容する  
住宅たち

# 新たに 茶室を 備えた洋館

ケーススタディ／2

歓歸荘に  
茶室・也無庵を  
設計した建築家

## 吉野弘

よしの・ひろし

1970年千葉県生まれ。94年玉川大学文学部芸術学科卒業。2001年OMAにてブラダの仕事に携わる。02年磯崎新アトリエ。11年吉野弘建築設計事務所を設立。「白井晟一 精神と空間展（群馬県立近代美術館ほか）」（10〜11）などの展示デザイン多数。

作品 歓歸荘+也無庵（茶室）

設計（歓歸荘）

## 白井晟一

白井晟一の最初期の作品である歓歸荘。伊豆の旅館・白石館に建てられたが、後に移築され、八ヶ岳の山荘として生きながらえていた。さらに新たな住人の手にわたり、一部を大胆に茶室・也無庵に改修し、生まれ変わっている。

取材・文／植林麻衣 写真／藤塚光政

Yoshino Hiroshi

Nakamori Takatoshi

歓歸荘の  
新たな住人

## 中森隆利

なかもり・たかとし

1945年静岡県生まれ。市立高崎経済大学を卒業後、父親の経営する日本シユバイツペアノ入社。74年に退社し、音楽と楽器の普及をテーマに群馬県前橋市にピアノ販売会社を創業し、翌年法人化（現・日本ピアノホールディングス）、現在に至る。

村田珠光の「獨廬庵」  
にならない、4畳半が3畳に  
可変する茶室

白井晟一が用いていたホ  
ールチェーンで4畳半を  
3畳へと仕切っている。  
床に掛けられた軸は、  
白井晟一の書「也無」。



Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study



Shirai Seiichi

2

Shirai Seiichi



↓1階居間の窓。居間部分はもともと和室だったが、洋風の腰窓になっている。

↑2階サロンの窓。西洋の城郭のようなエンプレムの装飾が付けられている。



1階玄関前の広間。奥に色ガラスの開き窓。

## 伊豆から 八ヶ岳に移った 幻の住宅

——1937年に伊豆の名旅館・白石館の敷地内に建てられた歓歸荘は八ヶ岳への移築を経て、約80年後に一部茶室に改修され今に受け継がれています。その歩みをお話しくください。

**吉野** 歓歸荘は、旅館のオーナーが客人を招く「趣味の洋館」として、また友人の

芸術家が逗留して創作する場として設計されました。2階は

フランス・モンテ

ニユの城邸を参照し

ながら禅と縄文の精

神性を意識したサロ

ン空間で、外階段か

らアクセスできるパ

ルコニー、暖炉とス

テージを備え、1階

は逗留用の和室とい

う構成です。198

0年代初頭に白石館

が隣接する三養荘に

統合される計画がも

ちあがり、これに伴い

歓歸荘も解体される

ことになりました。

**中森** その歓歸荘を八ヶ岳に移築したのが、

2代目のオーナーとなった故・横山達雄さ

んです。横山さんは八王子の医者で、ジャ

コモ・マンズリーなど美術品蒐集のアドバイ

スを白井晟一さんに仰いでいました。その

縁で白井さんが1983年に亡くなる前に

提供/白井晟一研究所(アトリエNo.5)



Old Photograph

↑伊豆古奈白石温泉・白石館に立っていた「歓歸荘」。「趣味の洋館」と言われていた。

移築の了承を得たのです。解体は1986年に行われ、当初は八王子に移築して自宅にする構想でしたが、敷地面積が足りずに部材を保管していたそうです。土地探しにもこだわり、1988年に山荘として八ヶ岳に移築されました。

——それから約20年を経て2010年に中森さんが3代目のオーナーとされます。

**中森** 私は群馬県高崎市で海外製ピアノをはじめとする楽器販売やコンサート運営の

↓訪問時に記したと思われる2階ステージのアーチ上部にある白井晟一のサイン。最初の作品らしく「ARCHITEKT S.SHIRAI」と誇らしげに記されている。



2階サロン。ステージを上り、奥の扉からバルコニーに至る。外観同様に中世ヨーロッパを彷彿とさせる内観。



会社を営んでおり、音楽方面で横山さんと

交流がありました。歡歸荘に招かれたのは2008年のことです。2階サロンのナグリが施された木材や伊豆石を積んだ重厚な

暖炉など、今では入手できない素材や手仕事に感銘を受けました。それで「こんな建物なら自分で所有してみても」とつぶやいたらしいんですね。それで横山さん亡き後、奥さまからお声がけがあったのですが、そのときは、あっさりとお断りしてしまつて、

——にもかかわらず、所有に至つた理由はなんだつたのでしょうか。

中森 移築には億以上の費用がかつたと聞いており、到底手が届かないだろうと

Nakamori Takashi

購入金額すらおたずねしなかつたのです。

私個人で使うのではなく、建物の価値を共有しながら、次世代につなげたい。

しかし不動産業者にゆだねると聞き、壊されてしまうのでは、

と危惧を抱きました。あらためてご相談したらなんとか私個人で都合できるとわかつたのです。

間の和室に改修されました。

——このバルコニー下に2016年に茶室が造庵されますが、名作住宅に対して大胆な発想ですね。

中森 2010年秋に、地元の群馬県立近代美術館で「建築家 白井晟一 精神と空間」展が開催されました。訪ねたところ歡歸荘が現存しない建築として展示されている。学芸員の谷内克聡さんに「今、所有しています」とお伝えしたら、たいそう驚かれます。移築までのタイムラグのせいで、足取りが

わからなくなつていたのでしょね。

吉野 私は当時、同美術館を設計した磯崎新アトリエに勤めていた関係で展示にも携わっていました。谷内さんのお引き合わせで、八ヶ岳に「幻」を訪ねることになったのです。

——移築から四半世紀を経た歡歸荘の状態は、いかがでしたか。

吉野 煉瓦1枚に至るまで丁寧な扱われ、非常によい状態でした。2階のサロンは創建当時の状態、1階の和室はいたんでいたこともあり前オーナーにより洋室に。バルコニー下の和室も当時とは趣を異にする二

## 幻に新たな息吹きを吹き込んで

——購入後の経緯はどのようなものだったのでしょうか。

中森 2010年秋に、地元の群馬県立近代美術館で「建築家 白井晟一 精神と空間」展が開催されました。訪ねたところ歡歸荘が現存しない建築として展示されている。

学芸員の谷内克聡さんに「今、所有しています」とお伝えしたら、たいそう驚かれます。移築までのタイムラグのせいで、足取りが



吉野 中森さんたちと、アントニン・レーモンドのトレッドソン邸(1931)やカニングハム邸(54)などの名作住宅も訪ねました。住みつけながら美術展を催したり、あるいはカフェを併設するなど、若い

世代を中心に人が集まる仕掛けがあることがひとつのヒントとなりました。そして行き着いた答えが、茶室です。

——洋館とうたわれた建物に対し、なぜ茶室だったのでしょうか。

吉野 文化的に親密な交流を図るなかから未来につながるれば、というのが中森さんのお考えでした。2階のサロンは西洋的な集いの場。それを日本文化で翻訳した空間が1階の茶室です。

——その茶室は4畳半を基本とし、3畳間にも展開できるユニークな構成ですね。

吉野 茶会を催したい、いや、少人数で夜咄もしたいというさまざまな声があり、そこで千利休にならった4畳半の基本形をつくり、そこに村田珠光の可変茶室「獨慮庵」を重ね合わせ3畳小間へと可変するという構想を思いつきました。完成を白井晟一のご息の豆腐さんにご報告させていただいた際に、白井晟一の書「也無」を見立ててください。「也無庵」と命名しました。

——小間として使うときは、2種類のしつらえがありますね。

吉野 垂れ壁に簾をかけ、一部丈を短くし



4畳半を3畳間の小間へと  
鍔竹の簾で仕切っている。

#### 変容のポイント

### 洋と和、 それぞれの 集いの場

2階のサロンは西洋的な集いの場、1階の茶室は日本的な集いの場。それぞれに適したイベントが催されている。



ピアノの演奏会が  
催されている  
2階のサロン



お茶会が  
催されている  
1階の茶室

て茶道口に見立てています。もうひとつのしつらえが、白井晟一が親和銀行・懐膏館(75)で採用したボールチェーン。床の間も可変でガラスの積層板をのせて雰囲気を変えます。

——木毛セメント板を土壁に見立てたり、床の間の地板にピアノの古材を使うなど、融通無碍な素材使い・意匠も印象的です。

吉野 白井晟一の建築に新たなコンテクストを加える以上、揺るぎない芯を設けたく、現代的な侘びを目指しつつ中森さんの個性が宿る意匠を考えました。腰壁にはお好きなシューベルトのセレナーデを裏擦りした和紙を。床柱の赤松もピアノに使われる材

です。群馬で教室をもたれるご宗家にもプランを見てもらったところ、茶器が割れることを想起させる素材は厳禁とのご指摘を受けましたが、ボールチェーンは白井晟一へのオマージュかつピアノの弦を想起させるモチーフなので、どうしてもやりたかった。

### 想いと建物を 次につなげる

——現在のメンテナンス状況や催しについて教えてください。

吉野 移築時の施工がよかったため、とくに手は入れておらず、中森さんたちが定期的に訪れ風を通してきています。温暖な伊豆から降雪のある土地に移ったので水が溜まりやすい箇所があり、ドレンの修理を検討しているくらいですね。

中森 活用のほうは別荘地内の八ヶ岳高原音楽堂(設計・吉村順三)ともご縁ができて、連携しながら年に数度、2階で音楽を聞く集まりや、1階で顔の見える規模で茶会を開いています。白井晟一についても説明をして、建物の価値を堪能してもらっています。

——訪れた方々は2階のサロンについてど

た。ふっきて前に突き進みました。

のような感想を抱かれますか。

中森 暖炉やステンドグラスなど当時の意匠に素直に感動されますね。なんだか落ち着く……とナグリが施工された柱をなでる方もいらっしやいます。

吉野 白井晟一がドイツ留学から帰国し、方向性を模索していた時期の設計なので、設計中には禅僧との出会いがあったり、1950年代半ばに議論を呼んだ論考「縄文的なるもの」を執筆するインスピレーションにもなった葦山の江川家住宅を訪れています。ヨーロッパで体感した信仰や哲学や空間性と、日本の縄文的な力強さや禅の精神性など、その後のエッセンスが結実する兆しを個人的には感じています。

中森 そんな歓聲の移築を白井さんが許可したことが、私は最も大切だと思ってるんです。ご自身で評価していなければ壊されるままに任せていたことでしょう。その白井さん、前オーナーである横山さんの想いをつなげたい。建築はきちんと手をかければ、人間よりはるかに長い時間を生きることができま。この建物をきっかけに、音楽・茶道・建築など多分野の人々が集い、ネットワークが生まれ、次につながる萌芽になればと思っています。

Yoshino Hiroshi

#### 白井晟一の建築に

新たなコンテクストを加える以上、  
揺るぎない芯を求めました。





1階の茶室「也無庵」。仕切りを設けない4畳半の状態。外部からは煉瓦のアーチをくぐって茶室に至る。



←茶室の壁面と腰貼り。壁は木毛セメント板だが、土壁のように見える。腰貼りはピアノ業を営む施主に合わせ楽譜にしている。

→床の間。白井晟一による書「也無」。床板にはピアノの鍵盤に見立てたアクリルの積層材を据えている。

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

2

Shirai Seiichi

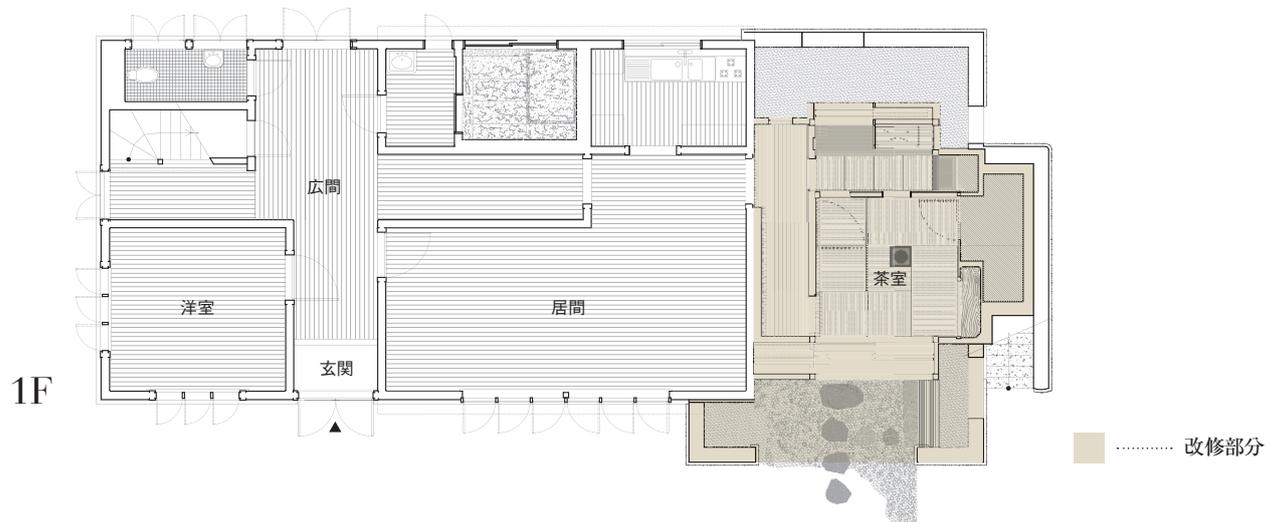
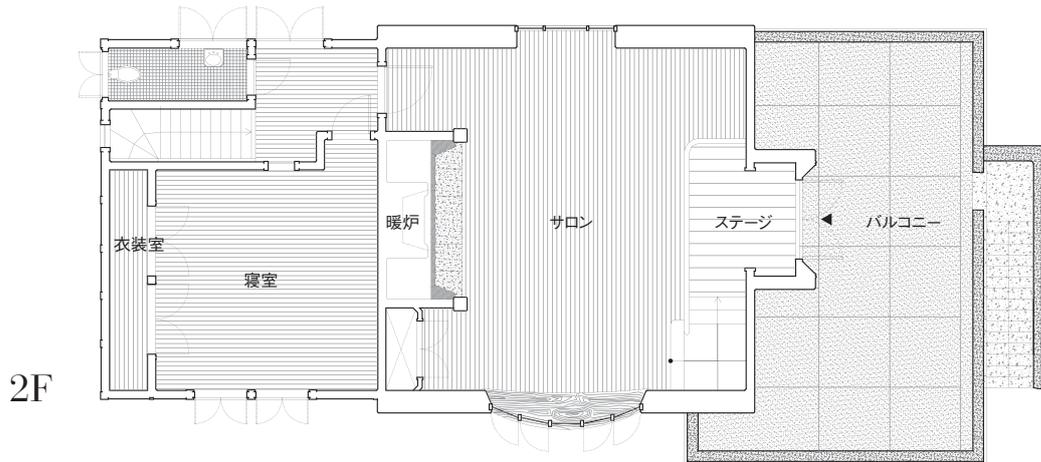


# 平面図(改修後)

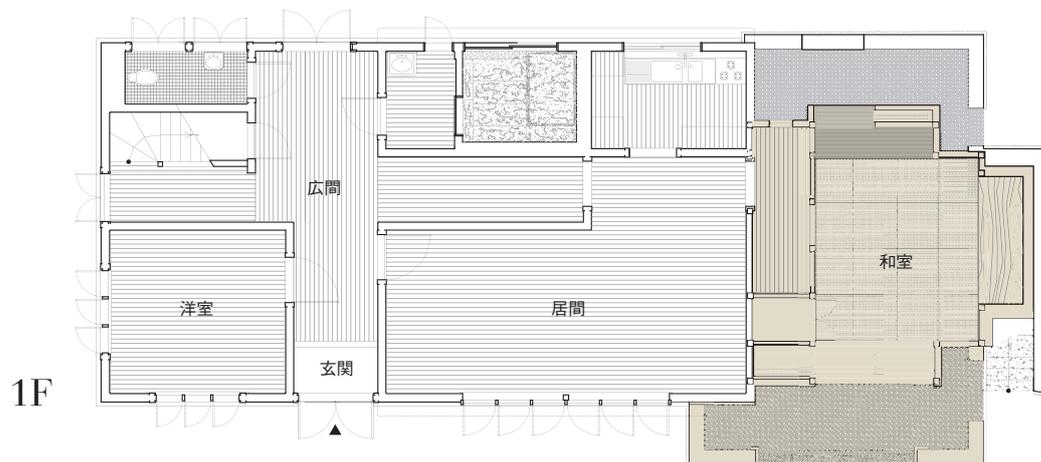


0 1 2m

1/150



# 平面図(改修前)



## まとめの文

# 和と洋を備える ふくよかな包容力が、 継承につながった

文・植林麻衣

## 建

築でありながら、建築とは一線を画した不可思議な存在、それが住宅だ。人の営みに最も深くかわわりながら、住宅はしばしば建築というジャンルにおいて特殊な位置付けをされる。たとえば住宅設計を中心に手がける建築家が、時に「住宅作家」と、ことのほか孤高な響きをはらませられるのはその現れともいえるだろう。住宅は、個人に帰結するきわめてプライベートな存在なのだ。その善し悪しの価値判断を下せるのは、設計者やメディアでもなく、日々そこで暮らしを営む建

主で、それゆえに住宅はある種、閉じた価値観のなかに身を置いている。

また一方で、住宅の存続を担うのも建主という一人である。莫大な相続税や変わりゆく住様式への対応など、住宅という小さな存在が生きつづけるために背負うものは、公共建築に比してはるかに大きい。しかし住宅を取り巻くそのような危うさをものともせず、歎歸荘はさらなる時を紡いでいる。

場所を変え、三度持ち主を変えただけではない。茶室という大胆な解釈を新たな魅

力として受け入れ、なお本質を損なわない強靱さとしなやかさを歎歸荘はもっている。それには2階が洋、1階が和と、明確に様式が分けられた空間構成も下地となっているのだろう。ゴシックや縄文、西洋哲学や禅などのエッセンスが融通無碍に横溢する

2階は、人や時代によって異なる価値の発見を引き出す。そして2階から受けたインスピレーションを、汎用的な生活空間として想定され改築の余地を残していた1階に新たに具現化できる。こうした構図が、白井晟一という芯はそのままに、時代ごとに

用途を変えることを可能としてきたともいえる。

歎歸荘は遠い将来、ギャラリーなどさらに用途を変える可能性もあれば、在りし日のように個人の山荘として使われるかもしれない。そんな想像を受け入れるふくよかな包容力が、時を超えて継承され、未来を切り拓く住宅遺産ならではのポテンシャルを示しているのではないだろうか。

## 歎歸荘+也無庵 (茶室)



東側2階外観。

### 建築概要

所在地	長野県南佐久郡
主要用途	別荘、茶室(元は旅館施設)
設計	白井晟一
茶室設計	吉野弘(也無庵)
茶室設計のコンサルタント	
茶室:	旧磐城平藩主第十六代当主・御家流茶道十六世宗家・安藤綾信、村井義則
美術:	群馬県立近代美術館学芸員・谷内克聡
延床面積	219.80㎡
茶室面積	20.80㎡
階数	地上2階
構造	在来木造
竣工年	1937年
改修年	2016年

### 略歴



白井晟一  
Shirai Seiichi

しらい・せいいち/1905年京都府生まれ。28年京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)図案科卒業後、渡独。ハイデルベルク大学、ベルリン大学で哲学などを学ぶ。60年ヨーロッパを巡り、ゴシック建築などと接する。戦前は住宅、戦後には縁のあった秋田・湯沢で公共建築などの数々の仕事を心得、活動の幅を広げる。83年逝去。

東側の正面外観。L字  
型のコンクリート片を組  
み合わせたブロック（中  
村鎮の開発で、通称・  
鎮ブロック）による構造。

Kimura Yoshinari



Matsumoto Naoko



Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

3

Motone Seigo



2020

1924

特集  
変容する  
住宅たち

ケーススタディ / 3

# 建築設計事務所になった コンクリートブロックの家

作品 本野精吾邸

現・木村松本  
建築設計事務所

設計

## 本野精吾

関東大震災の直後、罹災が少なかったといわれる中村鎮式コンクリートブロック造。そこから学んだ本野精吾邸。その住宅を、夫婦の建築家である木村吉成さんと松本尚子さんが建築設計事務所として活用している。

取材・文／本橋仁 写真／桑田瑞穂

本野精吾邸を  
事務所として  
利用している  
建築家

### 木村吉成

きむら・よしなり

1973年和歌山県生まれ。96年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業（根岸一之に師事後、狩野忠正建築研究所。2003年木村松本建築設計事務所を設立。20年大阪芸術大学准教授。

本野精吾邸を  
事務所として  
利用している  
建築家

### 松本尚子

まつもと・なおこ

1975年京都府生まれ。97年大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業（根岸一之に師事）。2003年木村松本建築設計事務所を設立。大阪市立大学などで非常勤講師。

おもな作品

[house T / salon T] (16)。  
[house A / shop B] (17)。  
[house S / shop B] (31)。

# 生まれ変わり 事務所利用の 名作住宅

——本野精吾邸を借りることになった経緯について教えてくださいませんか。

**木村** この家を借りるまでに、いくつかの縁がありました。もともと、本野精吾邸にずっと前から興味をもっていたんです。きっかけは「TOTO通信」(2001年春号)の藤森照信先生の連載「原・現代住宅再見」の記事でした。それを見て素直に、すごい建築だなと感じました。あれは、大学を卒業したばかりの頃だったと思います。

**松本** 私は、じつは実家が近所なんです。小さい頃から、この家の存在は知っており、「謎めいた家だなあ」と気になってはいました。木村の話した藤森先生の文章でやはり私もこの家を見て、「この家知ってる!」と驚いたのを覚えています。

**木村** しばらくして、このあたりをふたたび散歩して前を通りかかりました。そのとき、本野精吾のお孫さんであり、持ち主だった本野陽さんに声をかけられました。ちょうどこの家を公開して自主的な映画祭をやっていた日で、とてもラッキーでした。「建築をやっています」と話したら、2階まで見せてくださり、映画も観て帰りました。それからつながりができて、私たちの設計した住宅のオープンハウスに本野さんが遊びに来てくださったりしました。

——先に本野さんと知り合いだったわけですね。そこからどのような展開があったのでしょうか。

**木村** 建築家が1枚の写真だけでトークを



所蔵/京都工芸繊維大学美術工芸資料館 (AN.5343-140)

Old Photograph

本野精吾邸の古写真。撮影時期は不明。竣工後、それほど時間がたたないなかで、客(外国人を含む)をもてなした様子だと思われる。本野自身は写っておらず、本野が撮影者か。

**建築家なら、  
貸してくれることになりました。**

Kimura Yoshinari

するというイベントがあるのですが、私の番がまわってきたときに本野邸の昔の写真で話をしたのです。そのときに、この家の保存活用に尽力していた一般社団法人住宅遺産トラスト関西(以下、トラスト)のメンバーでもある京都工芸繊維大学の笠原一人先生から写真をお借りしました。ちょうどその頃、トラスト内でもこの家を誰かに貸す話もちあがっていたようなのです。できれば貸す相手は、建築家がよいと考えていたそうです。理由は建築に対する理解



があることと、貸した後もこの建築を使ってトラストが講演会や展覧会などをしたという希望もあり、建築家ならそうした言い分も聞いてくれるんじゃないか(笑)、という判断もあったようです。トラストのメンバーの方から「借りませんか?」と突然連絡をもらいましたので、「はい!」と即答しました。

——もともと事務所は市内の二条城近くにあったそうですね。この本野邸のある京都の郊外に移転することには抵抗はなかった

のですか。

**松本** たまたまなのですが、相談を受けたとき、じつはこちらも実家の近くに事務所の移転を考えていました。というのも、子育てのために実家で暮らすようになっていたので、子どもが小学校にあがるタイミングで、家、事務所、それと学校を1カ所に集めたいと思っていました。子どもが学校帰りに事務所に立ち寄って、所員に混じって宿題をする。お昼はみんなでご飯をつかって食べる。そんな生活がしたかったんです。それが、まさか本野邸で実現するとは思ってもいませんでした。

**木村** 一軒家を事務所にするなんて、金銭的にも負担になるのではと思われるかもしれませんが、でも、京都はともな家賃が安いんです。先日でも東京から建築家が見学に来てくれましたが、家賃を聞いて絶句していました。具体的には伏せませんが、庭付き一戸建てとしては格安です。なお修繕については、トラストが時々、この家でイベントを催すので、そのときに集めたお金を貯めているんです。

## 開かれた1階と 閉じた2階、 異なる使い方

——本野邸は、最初期のコンクリートブロック造でつくられたことでも知られています。この建築の何に魅力を感じますか。

**木村** 最初にお話しした、本野邸の写真を借りたトークでは、本野が暮らしていた当時の写真を見せたのですが、私は住まい方にとくに注目しました。写真を見ると、2階にはカーテンがかかっていて、1階には

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

3

Motono Seigo





↓家の中央にある階段。上部のトップライトからの光を採り入れている。

↑設計事務所のスタッフのスペース。三面に窓があり、風通しがよい。

↓(写真下) 木村さんと松本さんのデスクを兼ねた打ち合わせスペース。

↓(写真上) 模型制作のためのスペース。2階の各寝室が仕事場になっている。



カーテンが写っていないのです。それを見たときに、おそらく1階はパブリックに開いていて、2階とは切り離されていたんじゃないかと思いました。よく見ると1階のテラスには、折りたたみの椅子なんかも置いてあってダイニングが外にまで続く印象です。建築の構法が目されがちですが、生活スタイルの新しさも、本野精吾は意識していたんじゃないかと思えます。

以前、本野家とつながりのある方が遊びに来られました。小さい頃に上で寝ていて、なんだか下がにぎやかでのぞきに下りたら、大人たちがダンスパーティーをしていたそうです。見つかって、子どもは2階で寝ていなさないと知られたそうですよ(笑)。

——見立てどおりだったわけですね。木村松本建築設計事務所では職住一体型の住宅を多く手がけられていますが、そうした仕事ともつながりますか。

木村 最初に取り組んだ職住一体の住宅の仕事では、都市のなかの小さい敷地だったので、働く場所と生活の場所とを、天井の高さの差や近い遠いなどの距離を操作するちょっとした工夫で解けるといふ発見がありました。本野邸のように、設計によって生活様式の奥底にまで入っていくこともできることは共通していると感じています。

松本 ちょうどその頃に、構造体への意識をもつようになりました。私たちの建築では、しっかりとした形をもつ構造体をつくることを意識しています。だからこそ、その中にふたつの性格の違う用途を入れても、全体の輪郭は変わりません。建築の形と、中の使い方がある意味では切り離されているんです。

——なるほど構造の形をしっかりとつくるこ

変容のポイント

## 開放されつづける住宅遺産

木村松本建築設計事務所が借りた後も、歴史的な住宅として見学会が催されつづけている。

とと、職住一体の建築を設計することはリンクしているわけですね。本野邸でも、1階と2階との使い分けをはっきりと分けていますね。

松本 もし事務所で、両方の階にスタッフが分かれてしまうと、コミュニケーションがとりづらいなど感じていました。だから事務スペースは、基本2階です。1階は人が集まるときに使います。

1階は大きなワンルームなので、人が集まれば他人同士の会話が何気なく耳に入っ



ワンルームの1階には多くの人が集うことができる



歴史的な名作を見ようと次々と人が本野精吾邸を訪れている

写真2点、提供／住宅遺産トラスト関西

てきたり、姿が見えたりして、そういうところが大事じゃないかと思っています。さらに、キッチンがあることも救いでした。キッチンがあるだけで、子どものお友だちとか、あるいはお客さんにちょっとした料理を出したりできるんですよ。人が集まることと、そこでできることの幅が広がるような気がします。

——それはもともと住宅であったからこそそのメリットですね。住んでしまおうとは考えなかったのですか。

松本 それは、なかったですね。古い住宅なので、子どもがシミがあるのが怖いって(笑)。確かに普通のマンションだったら、

シミってきれいに消されてしまうでしょう。誰が使ったかなんて履歴は消去されてしまいます。でも、消せない歴史は本当はあるはずですよ。

この家を借りながらも、心のどこかでは自分たちのものではないという感覚があります。この感覚は子どもが生まれたときに近いと感じます。子どもも私たちのものではなく、親は子どもの人生の一部分にかかわっているだけです。こうした名作住宅を借りるのに、自分たちが背負い込むのではなく、もっと長い歴史の一部のなかに住まわせてもらっていると考えるほうが気楽で、どこか健康的な気がしているんです。



1階の台所。事務所だが、客に料理を提供できる。

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

3

Motono Seigo



Matsunoto Naoko

この家を借りながらも、心のどこかでは自分たちのものではないという感覚があります。





↓ 食堂から居間を見る。窓にはカーテンなどを付けず、オープンな空間。

↑ 1階の居間から食堂を見る。今は打ち合わせなど、多目的に使われている。





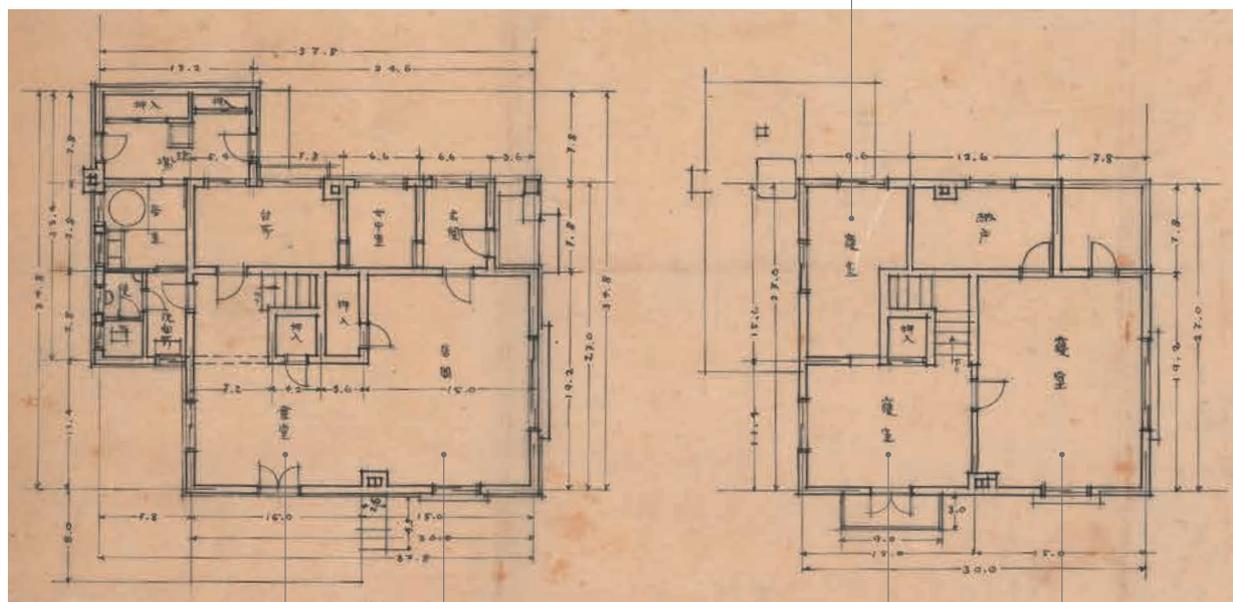
西側の背面外観。バルコニーと菜園に立っているのは設計事務所のスタッフ。

## 平面図

N  
 青文字 …… 現在の室名  
 黒文字 …… 竣工時の室名

0 1 2m

1/200



食堂・居間  
 多目的スペース

寝室  
 模型制作スペース

寝室  
 事務スペース

## まとめの文

# 事務所を「離れ」として 問い直す

文・本橋 仁

# 多

多くの企業が経験したように、木村松本建築設計事務所でも、新型コロナウイルスの影響を受けスタツフは自宅勤務を余儀なくされた。ただ、仕事の進め方の工夫次第では、働き方に幅が出ると感じて、緊急事態宣言が解除された今も、一部で自宅勤務の日を残しているという。またそれは同時に、事務所にわざわざ人が集うことの意味を問い直すことだったという。インタビューのなかで、松本さんが、この事務所がみんなの「離れ」のよ

うになつたらよいと語った。この言葉のなかに、名作住宅の可能性を開くヒントが隠されているように感じた。

本野精吾邸を事務所としてみたとき、普通のオフィスビルには望めないものがある。それは広いキッチンやテラス、そしてリビング。いわば、家族団らんのために用意された人が集まる空間だ。本野邸ではこうした部屋が1階に集められている。ただそれを、木村松本建築設計事務所では仕事場として使わない選択をした。それは結果とし

て家が元来もつ、家である性格を守ることにもつながっている。人が集まることに比重を置いて事務所の意味を問い直したとき、こうした要素こそが大事だったわけだ。

設計事務所であれば図面を引くなど、黙々と仕事をする必要もあるだろうが、テレワークが進んだ今、そうした作業については、あえて場所にとらわれる必要もなくなった。仕事をやる場としてのオフィスから、人が集まり交流する場としてのオフィスへの役割の大転換が追られている。人と人と

がコミュニケーションし合う場として事務所が問い直され、それが家の本来もつていた機能に徐々に近接してきたことが、松本さんに「離れ」というキーワードを想起させたのだろう。

こうした気づきは、名作住宅と呼ばれる建築が、別の用途に転用される可能性を開かせるものではないだろうか。

## 本野精吾邸

現・木村松本  
建築設計事務所



東側の正面外観。長年、本野家が育ててきた植物が茂る庭。

### 建築概要

所在地	京都府京都市北区
主要用途	事務所(元は住宅)
設計	本野精吾
建築面積	約100㎡
延床面積	約180㎡
階数	地上2階
構造	中村鎮式鉄筋コンクリートブロック造
竣工年	1924年

### 略歴



本野精吾  
Motono Seigo

もとの・せいご/1882年東京生まれ。1906年東京帝国大学(現・東京大学)工科大学建築学科卒業後、三菱合資会社に入社。08年武田五一に招かれ、京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)図案科教授。09~11年ベルリン王立応用美術博物館附属学校(現・ベルリン芸術大学)留学、西欧の近代建築に直接触れる。27年日本インターナショナル建築会を設立。44年逝去。



Takahashi Riyoko

Kagino Masahiro

歴史的建造物の  
保存活用を進める  
竹中工務店の担当  
(企画・事業化推進)

## 鍵野 壮宏

かぎの まさひろ

2005年早稲田大  
学理工学部建築学科  
卒業。07年同大学院理  
工学研究科建築学専  
攻修了後、竹中工務店。  
08年に都市開発を担  
当する開発計画本部  
に所属。15年新しい事  
業領域にチャレンジす  
るための社内コンペに参  
加し、歴史的な建築を  
活用する「レガシー活  
用事業」を提案し最優  
秀賞に選定、翌年に事  
業化推進。

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

# 1927

4

Kigo Shichiro



# 2020



特集  
変容する  
住宅たち

ケーススタディ／4

# 企業の 会員制オフィスになった 都心の大邸宅

作品 山口萬吉邸（現・九段ハウス）

設計

木子七郎

九段下の一等地に90年以上のあいだ立ちつづけてきた山口萬吉邸。高層化したほうが収益は大きい立地だが、住宅を壊さずに会員制オフィス・九段ハウスとして生まれ変わった。

取材・文／大井隆弘 写真／傍島利浩

南側の庭から見た外観。全体はスペイン風の影響。1、2階の半外部空間であるスクリーンポーチ、テラスが特徴的。

九段ハウスの館長

高橋利世子

たかはし・りよこ

2016年法政大学生命科学部卒業後、東邦レオに入社。事業部を超えて、緑化の新築工事の施工管理や新卒採用プロジェクトリーダーを経て、現在は九段ハウスの館長を務めている。

## 都心の二等地に 立ちつづけてきた 歴史的建造物

——九段下という都心の一等地。よく建物が残っていましたね。

**鍵野** そうですね。1927年の建設ですから、90年以上が経過しています。九段ハウスの周囲は文教地区に指定されていますが、それでも容積率は400%です。壊して大きなビルにしたほうが、金銭的にはずっと楽なはず。改修費や相続税の問題で、歴史的建造物が次々と姿を消す都心にあつて、奇跡のような建物だと思いました。

——戦禍もくぐり抜けてきたわけですから、鉄筋コンクリート造だったことも一役買っています。

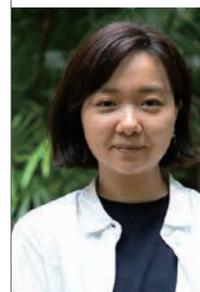
**鍵野** そうですね。構造設計は、東京タワーを手がけた内藤多伸です。耐震壁を用いた構造理論を考案し、「耐震構造の父」とも称される人物ですね。日本最初の壁式構造とされる内藤多伸自邸の建設が1926年ですから、この建物はほぼ同時期です。外観はスパニッシュでまとめられていますが大正・昭和初期の日本を象徴する様式のひとつですね。設計には、木子七郎を中心に、今井兼次、吉田鉄郎といった名だたる建築家がかかりました。構造、意匠ともに歴史的価値の高い建物です。

——今回の事業のために登録有形文化財にもしたそうですね。オーナーはどのような方ですか。

**鍵野** 竹中工務店では、これまでも歴史的建造物の保存や活用に携わってきましたが、一族や会社の歴史を大切にされるオーナー

数十社ほどの会員企業が  
さまざまな使い方で  
この建物を生かしています。

Takahashi Riyoko



が多かったですね。九段ハウスもそうで、

山口家や建物の歴史をとでも大切にされてきました。山口家は、新潟の大庄屋で、明治期以降石油や鉄道、金融、電力など、多くの事業を通して地域の発展に貢献した一族です。山口萬吉はその分家筋にあたり、江戸末期に家を起こして、5代目の時代にこの住宅を建設しています。戦後アメリカ軍に接収された時期もありましたが、昭和の時代をずっと生き抜いてきました。歴史ある建物を次の世代に残したい、そんなオーナーの想いが九段ハウスの出発点です。

## 会員制の オフィスの 生まれ変わった

——ところで、このプロジェクトには3社がかかわっているとか。

**鍵野** はい。東急、竹中工務店、東邦レオの3社が共同でオーナーからマスターリース（賃貸）を受けています。期間は20年。3社で改修費用を負担し、東邦レオの関連会社であるNIIWAが運営にあたっています。

ます。

——依頼は、どのような経緯でしたか。

**鍵野** 竹中工務店では2015年に新規事業の社内コンペがあり、私はチームを組んで、歴史的建造物をビジネス活用しながら守っていく「レガシー活用事業」を提案しました。これが当選し、事業が具体化するなかで候補を探していたところ、この建物に出会ったのです。そして、オーナーから同時に検討を進められていた東急、東邦レオと一緒に進めませんか、と引きあわせていただきました。オーナーは、長らくさまざまな可能性を探られていましたから、応援の輪も広がっていたのです。

**高橋** 東邦レオは、おもに緑化事業を通して不動産の価値をアップさせる取り組みを続けています。運営にあたるNIIWAは、屋外空間のにぎわい創出のためのコンサルティングなどを行っています。NIIWAが誕生したのは、東邦レオの事業を拡大しようとして、ちょうど会社が大きく変化した時期でした。

また、東急もワークスタイル・イノベーションを掲げ、多様化する働き方に対する

提案と実践を推進しており、2016年からは会員制サテライトシェアオフィス事業を展開し、テレワークを導入する企業を対象に、安全で快適な執務環境を提供していました。

今振り返ってみると、3社ともよいタイミングだったのではないのでしょうか。1年ほどの検討期間を経て会員制のシェアオフィスにすることで話がまとまり、改修工事が始まりました。

——なぜ、会員制のオフィスが選ばれたのでしょうか。

**鍵野** ウェディングを検討した時期もありました。ただ、この建物は壁式構造で個室がたくさんあり、列席者が集まる場が確保できないし、文教地区ですから使い方も注意が必要です。では、個室が多いことが生きる用途は何か。そう考えたときに、会員制のオフィスの案が浮かんできました。クラシックな空間ですし、もともと住宅ですから、迎賓館のような雰囲気でもビジネスのイノベーションを生み出してくれます。

## 会員企業の プロモーションや 重要な会議に 使われている

——改修工事の内容を教えてください。

**鍵野** 当然ですが、オフィスとしての機能性や快適性が求められました。空調や照明、LAN、コンセントなどの設備は必須です。とくに空調設備は機械が大きくダクトもある。居室や外観への影響が最小限になるよう検討を進め、1階用には地下の物置、2

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study

4

Kigo Shichiro





1階の廣間。噴水があり、半戸外のような印象を受ける。噴水の裏側はトイレ。右手には、扉が左右対称に見えるように、開閉しない扉状の装飾がある。



↑応接間。ソファの下に空調の吹出し口を設置するなど、既存意匠と調和するかたちで設備を更新している。

→2階のホールから1階の廣間を見下ろす。2階奥に既存のラジエーターのカバー。新設の空調機が格納されている。

←玄関。床の大理石やモザイクタイルは当時のまま。扉にはめ込まれたガラスは開閉でき、通風を確保できる造り。



## 会員企業がそれぞれの目的で空間を生かす

利用方法は、毎回会員とともに相談しながら決めているという。迎賓館のような雰囲気のある建物を読み解かれながら利用されている。



屋上のオープンテラスを憩いの場に



1階のビジネスラウンジでは重要な会議を

写真2点、提供/九段ハウス

階や3階用には道路や庭から見えない2階屋上に機械を設置することにしました。吹き出し口の位置も工夫し、たとえば廣間の既存のラジエーターグリルの中、応接室の造り付けソファ下に設けています。

全体としては、当初の設計がよく残っていましたが、さすがに炊事室や食堂（現・キッチン・ダイニング）、茶の間（現・ライブラリー）は、住み継がれるなかで改造されていました。ですから、この部分は意匠的にも大きく変更しています。しかし、そのほかの部屋は補修が中心です。靴を履き替える場所もそのままです。必要に応じて家具の追加などはしましたが、当初の設計と新しく追加した要素が調和しつつも明確に分離するよう心がけました。

——実際のよう利用されていますか。  
高橋 毎回会員と相談しながら決めています。基本的には1棟貸しで、これが収益の要になっています。現在、会員は数十社ですが、ファッショ関係が多いです。使われ方はさまざまで、重要な会議であったり、株主を迎えた説明会であったり。学ばせていただくことも多々あります。たとえ

建物の歴史的なストーリーや空間の質を生かした活用が問われるようになると思います。



Kajiya Masahiro

ば、会員向けの新商品のお披露目会をする際に、部屋の特徴に応じて陳列する商品が選ばれ、そこへ順番に顧客を案内するような利用方法です。部屋それぞれの雰囲気を読み解きながら使っていただけとは、建物にとっても幸せなことですね。  
鍵野 間取りを見ていただくとわかりますが、玄関、内玄関など、出入口が多いです。加えて、どの部屋も廊下とスクリーンポーチの両方に出入口をもっています。回遊性が高く、一筆書きのルート設定さえ可能です。使い勝手がとてよいようです。

——個人でも利用できるのですね。  
高橋 そうですね。運営側が提供しているプログラムがあり、茶道や華道のレクチャー、経営者や芸術家を招いたトークセッションなどを開催しています。華道のレクチャーでは、参加者が好きな場所を選んで、そこでお花をいけてもらいました。企業の利用と同様、建築を深く味わうことができます。利用と関係しています。プログラムの多くは日本のアートに関係していますが、それは奥ゆかしい世界観や美意識が、利用者の感性を研ぎ澄ませたり、創造的なコミュニ

Special Feature  
Transforming  
Houses  
Case Study



Kigo Shichiro



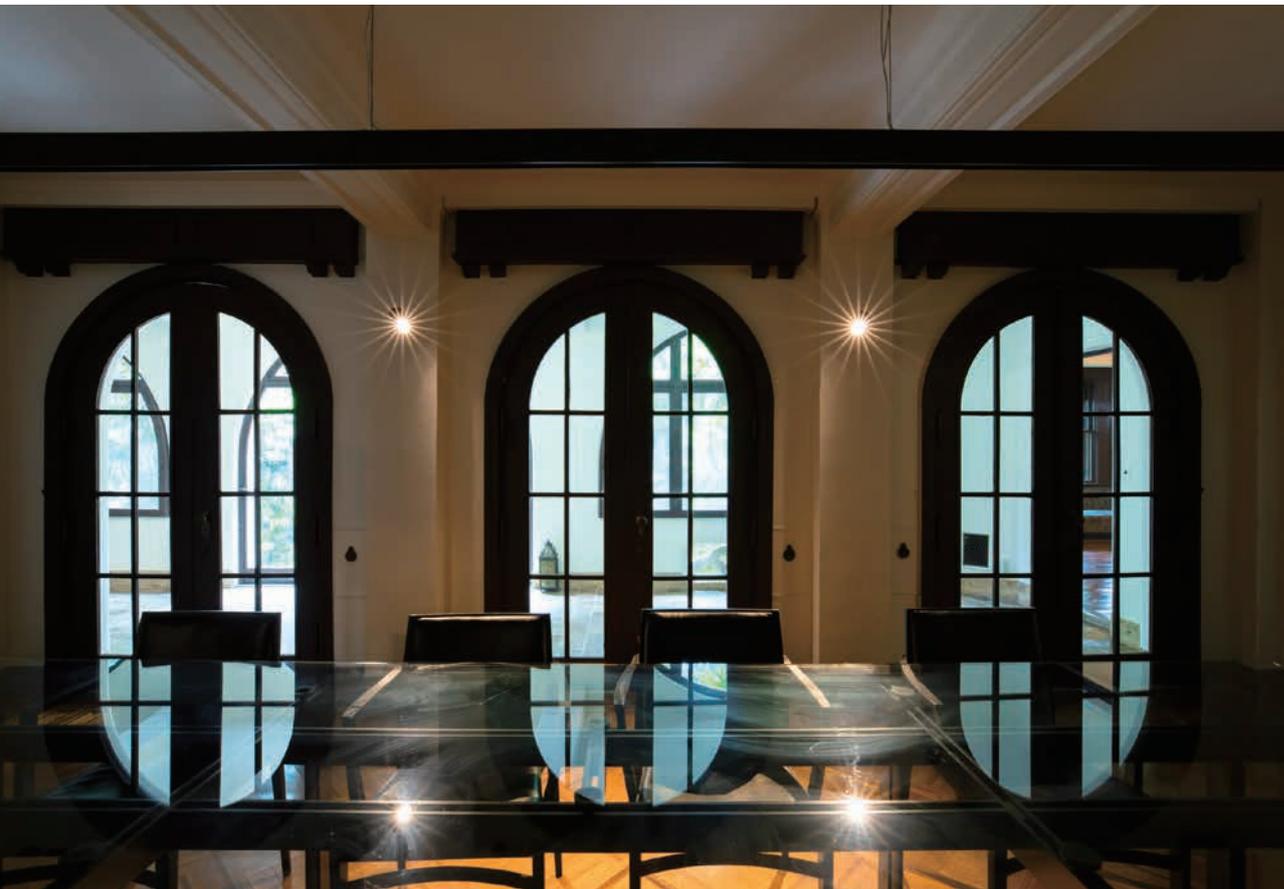
ニケーションを誘発したりすると信じているからです。庭園を日本式でまとめているのも、同じ理由です。  
このほか、登録有形文化財ですから、やはり一般公開も意識しています。昨年度は、アートを展示して、一般の方に建物と一緒に見ていただく機会を設けましたが、そこで制作された茶室作品が現在も残されています。企業だけではなく、個人にも大切にしておうと考えると、やはり和のアートは有用ですね。  
——そうした運営の背後には、どのような方針があるのでしょう。  
高橋 とくに決めごとをしているわけではありません。その都度、建物のよさを生かしながら、柔軟な対応を続けてきました。しかし、つねに意識していることがひとつあります。マスターリースが終わる20年後に、この建物の価値を最大限高めてオーナーへお返ししたい、ということですね。  
鍵野 そうですね。それぞれの企業にとって重要な会議が開かれたり、企業のメセナとして有名な芸術家が個展を開いたり、その積み重ねも歴史ですね。各プログラムを通して、この建物を深く知り、大切に思ってくれる方を着実に増やしていく。価値は、そうして増していくのだと思います。  
今一般的に、背の高い建物がランドマークになりやすそうですね。しかし、これからは建物の歴史的なストーリーや空間の質、さらにその理解を深めるような活用が大切になると思います。ここでの体験を通じて建物や空間を大事に思ってくれる人の輪が広まった結果、この建物も新たなランドマークになっていくのではないかと。そんなことを、期待しています。



(写真上) 屋上のオープンテラス。屋根には小屋風の排気口。(写真左) 1階のスクリーンポーチ。左手のビジネスラウンジと右手の庭の中間に位置している。半戸外のような場所。



↑(写真右) 1階のライブラリー。元洋室。(写真中) 地下のギャラリー。元物置。(写真左) 2階の個室のオフィス。元寝室。



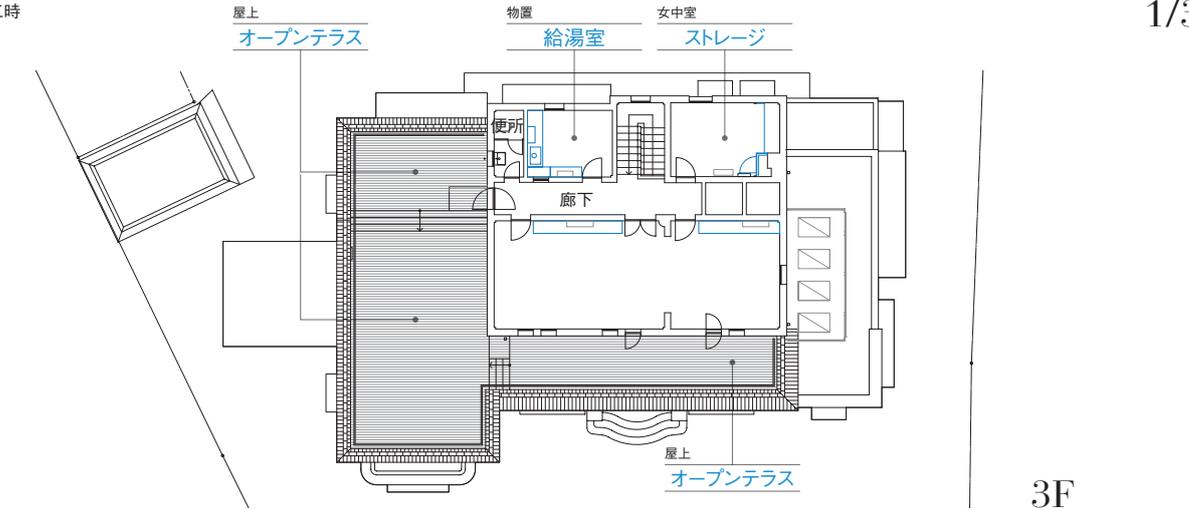
←ビジネスラウンジ。スクリーンポーチ越しに庭を見る。アーチが印象的。

# 平面図

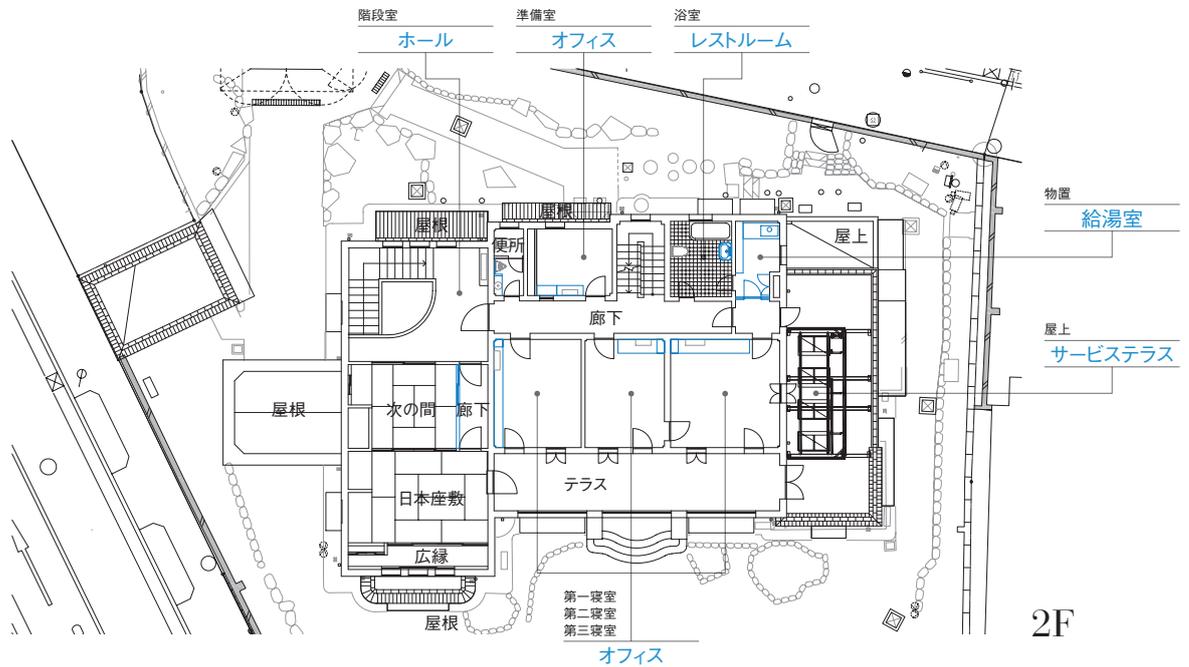
0 2 4m

1/300

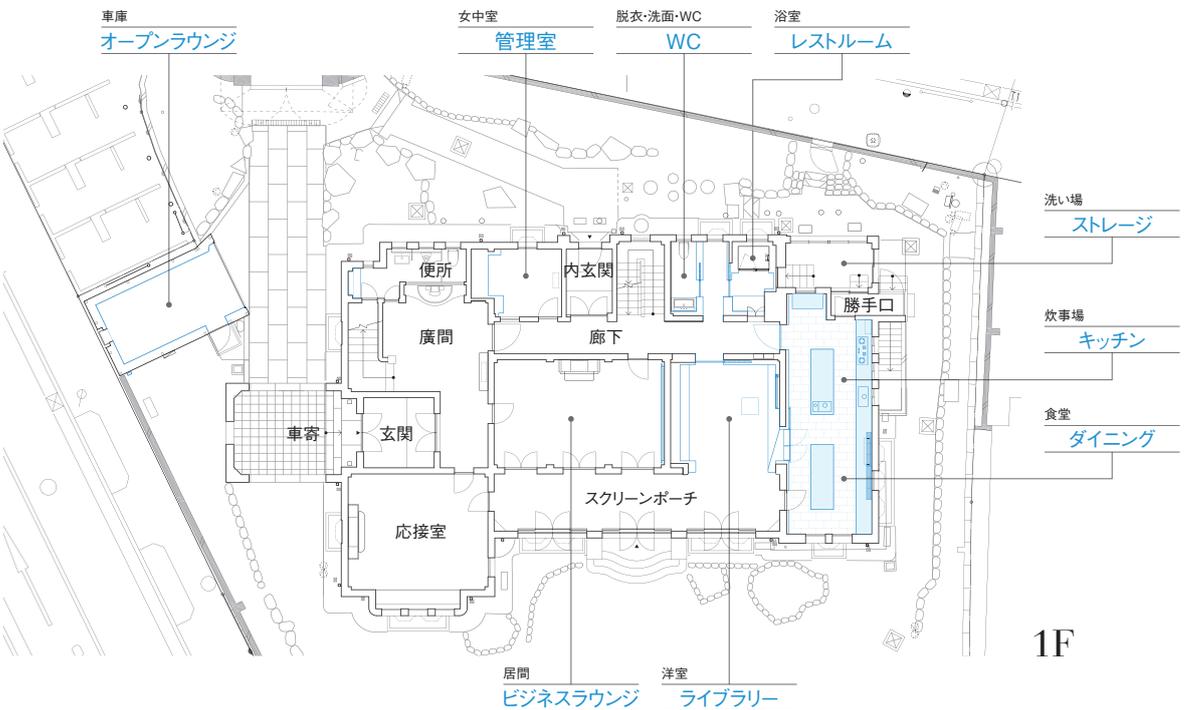
青線・青文字 …… 改修後  
 黒線・黒文字 …… 竣工時



3F



2F



1F

## まとめの文

# 積雪でも折れない柳の枝のように

文・大井隆弘

## 利

休七哲の筆頭、蒲生氏郷。病床を見舞った千少庵に曰く、「限りあれば吹かねど花は散るものを心みじかき春の山風」。花の一生には限りがあり、いずれば花を散らす。それなのに、なぜ春の山風はせわしく吹くのだろう。この一句に、九段ハウスを重ねてみる。風吹き荒れる都心。登録有形文化財になり相続税の減免が受けられたとしても、都心では負担が大きいし、改修工事も億単位だろう。決して個人が耐えられる額ではない。山口萬吉邸はいかに継承され、九段ハウスにな

ったのか。

それは無論、オーナーの想いと努力が端緒にあり、3企業の資本が背景にある。しかし、ここには注目すべき3つの読み替えがあると思う。ひとつ目は構造や意匠、用途に由来する空間特性の正確な把握にもとづく用途が導かれたこと。ふたつ目は、運営者がそれを深く理解し、利用者まかせではない、建築へ深い理解を促すような体験を提供しつづけていること。そして3つ目は、従来の文化財のようないわゆる歴史体験の場ではなく、あくまで自らを歴史の線

上に置いて積み重ねようとする姿勢を貫いていることである。

竣工して約2年。九段ハウスがずっとこの場所で生きつづけたとすれば、それは用途、利用、姿勢に関する3つの読み替えが、うまく整ったことを示しているにちがいない。事業面では建物の維持管理に必要な収益の確保に努めているというが、文化財の活用がますます求められる今日、サステナブルな保存として九段ハウスに学ぶ点はいくつもあると思う。

さて、後の創作ともいわれるが、氏郷に

対する千少庵の返歌が伝わっている。「降ると見ば積らぬさきに払へかし雪には折れぬ青柳の枝」。風と花を、雪と柳に読み替えたことで、あふれんばかりの生命力を感じさせる激励の一句になっている。九段ハウスにも、暗中模索、冬の時代があったはずだ。しかし3つの読み替えが、そこに希望の光をあてた。しなやかで折れることのない柳の枝。リースの契約期間が終わる頃、九段ハウスはきつと、大きな柳の木へと成長を遂げるだろう。

## 山口萬吉邸

(現・九段ハウス)



北側の門からのアプローチ。右手にあった車庫は、イベントの際に展示などを行えるオープンラウンジに改修されている。

### 建築概要

所在地	東京都千代田区九段北1-15-9
主要用途	事務所(元は住宅)
設計	木子七郎
改修設計	竹中工務店
建築面積	313.52㎡
延床面積	839.07㎡
階数	地下1階、地上3階
構造	壁式鉄筋コンクリート造
竣工年	1927年
改修年	2018年

### 略歴



木子七郎  
Kigo Shichiro

きご・しちろう/1884年東京生まれ。内裏の作事に代々かかわってきた大工の木子家、木子清敬の四男。1911年に東京帝国大学(現・東京大学)工科大学建築学科を卒業後、大林組に入社。12年新田帯革製造所、および関連会社の顧問。13年木子七郎建築事務所を開設。26年日本赤十字社大阪支部嘱託、同支部病院建築主任。関西を中心に多くの公共建築や住宅を手がける。54年逝去。

フライ・フィッシング聖地の宿

この部屋のスケッチがちよつとおざなりに見えるのには理由がある。

私はフライ・フィッシング（\*1）を愛好しているのだが、その聖地ともいべきクロアチアのオトチャツツにあるガツカ川（\*2）についてやってきたので、はやる心を抑えながら10分くらいでスケッチしたためだ。

この小さなペンションというかアパートメントに友人夫妻と1泊した。かわいい2階建て。パーベキューができるテラスもある。ベッドルームはふたつあり、2家族にちょうどいい。階下には家主のおじさんが住んでいる。着いたとき、別棟の陽気なおばさんがグラッパ風の酒を振る舞ってくれた。焼酎である。

さて、スケッチもそこそこ竿をつかんで徒歩1分の流れに向かう。

すばらしい溪相。川はいわゆるスプリング・クリーク（\*3）。幅10〜20mくらいで森もある田園のなかを音もなくゆったりと流れている。深い！きれいな水のなかに草や藻がたくさん。そのなかに大きなトラウト（\*4）の姿がいくつも見える……ということとは向こうからもこちらがよく見えているはずだ。川岸に大きな木がたくさん立っているが、意外に身を隠せないので腰を下ろして竿を振る。

魚は水面のドライフライ（\*5）を見に来ては戻ってしまふ。さては悟られたか！しばらく歩いて黒っぽいウェットフライ（\*6）を少し沈めると、やっと中型のブラウントラウトが2本出た。やや難しい。しかしこの溪相はうつとりするほど美しいのでそれでもいいやと思ってしまう。ライセンス・チケット売り場に同好のアメリカ人がイギリス人が何人も来ている。きれいなパンフレットもある。看板には親切にも季節、時間、フライの種類まで書いてある。「ドコガポイントか？」とたずねると「ドコデモ釣レル」という答え。明日は早起きしよう！



源泉にある水車小屋群。昔はたくさんあったとか。

この宿、バスルームもそれぞれの部屋にあつて、シャワーユニットは新しい。窓もある。キッチンのあるダイニングは共用で長逗留向き。日本の釣り宿もこのくらいのグレードにならないものか。

クロアチアは1991年にユーゴスラビアから独立したのだが、戦闘が激しかったとみてオトチャツツの街はいまだに弾痕だらけ。食糧難で地雷を川に投げ込んで魚を捕って食べたとか……遊びの釣りどころではない。翌日竿を納めてから川のスプリング（源泉）に行つてみる。

池に大量の水が湧き出し、いきなりものすごい水量の川となつて流れ出ていく。大迫力に感動。そこに古い水車小屋が3棟あつて絵になる。板壁で屋根は桎葺き。

小屋に入つてみるとわれわれがよく見る車が縦にまわるタイプではなく、小屋の床下に軸が突き出て板の羽根がゴ1ゴ1と水平にまわつて石臼が粉を挽く「水平型水車」。この形は古いようだ。昔はこの地域に水車小屋が60棟あつたというから壮観であつたにちがいない。

クロアチアでは水力発電を利用した製材を盛んに行つていふとのこと。さもありなん。

よさそうなホテルも見つけた。よしもう一度来るぞ！

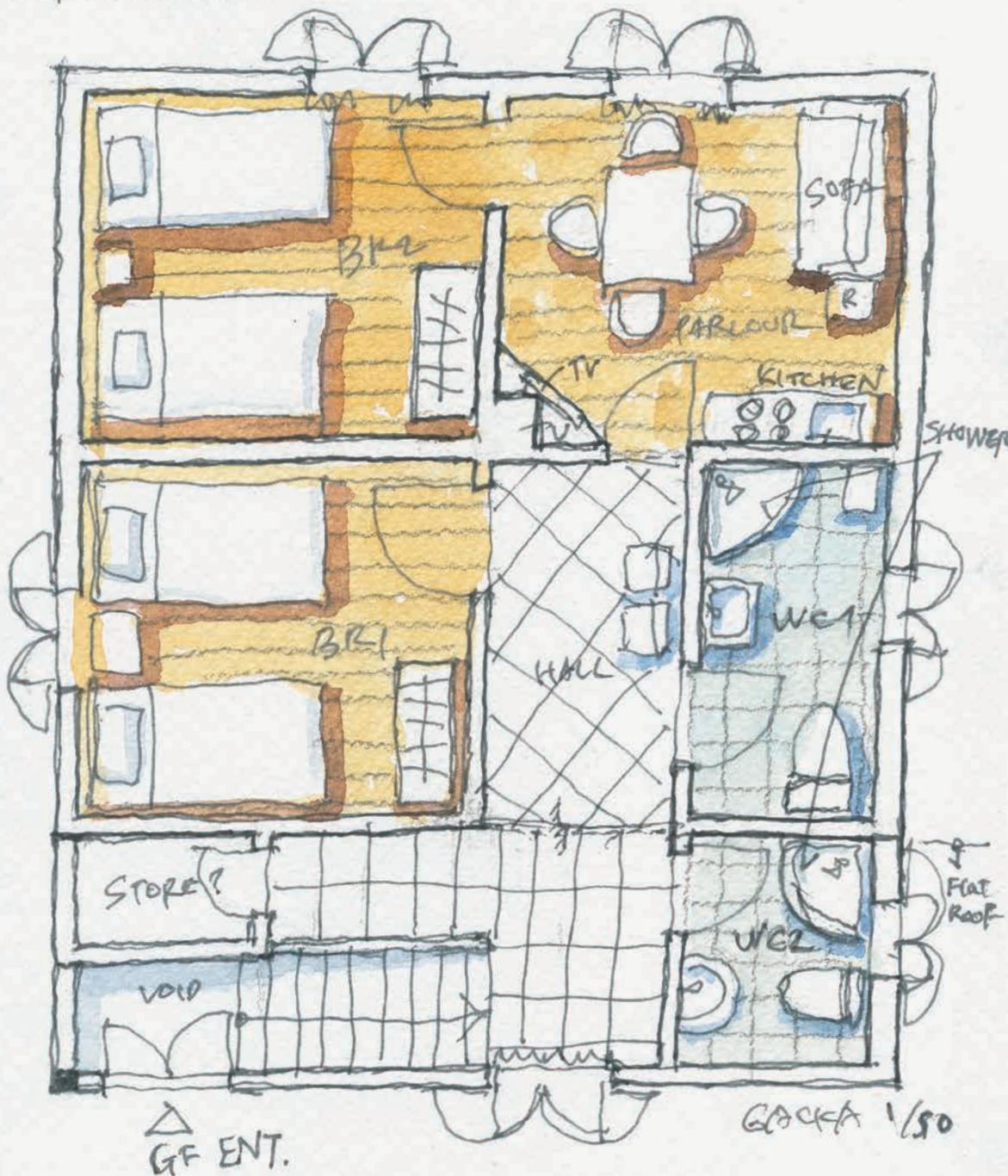
- \*1 フライ・フィッシング…欧米式の毛鉤を使う釣り。釣り糸は先端になるほど細く、軽い。虫などを模した毛鉤はそれに結ぶ。
- \*2 ガツカ川 (Gacka) …クロアチア北部のオトチャツツ (Otocac) を流れる61kmの河川。
- \*3 スプリング・クリーク…湧き水を源泉とする川。
- \*4 トラウト…鱒類。ここではレインボウ、ブラウン、グレイリリングなどのトラウト。
- \*5 ドライフライ…水面に落ちる虫などを模した疑似餌。鳥の羽根などをつくる。
- \*6 ウェットフライ…水中に沈める疑似餌。



童話の挿絵のような宿の外観。

うら・かずや/建築家・インテリアデザイナー。1947年北海道生まれ。70年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。72年同大学大学院修士課程修了。同年日建設計入社。99〜2012年日建スペースデザイン代表取締役。現在、浦一也デザイン研究室主宰。著書に「旅はゲストルーム」（東京書籍・光文社）、「測つて描く旅」（彰国社）、「旅はゲストルームII」（光文社）がある。

# Apartmani Knez.



Text & Sketch by Ura Kazuya

2階平面。  
すべての部屋に窓。

Apartmani Knez

Add/Čovići 227, 53224-Ličko Lešće , Croatia  
Tel/+385 (0)53 761 040  
URL/www.apartmani-knez.hr













# 宮島口旅客ターミナル

Miyajimaguchi Ferry Terminal

今年2月29日、国宝であり世界遺産でもある厳島神社の対岸に「宮島口旅客ターミナル」がオープンした。新ターミナルは

2013年から広島県が旧ターミナル横に整備を進めてきた埋め立て地に建設されたもので、単なる乗船場ではなく観光交流拠点としての機能も備えた施設。建物は鉄骨2階建てで、延床面積は約2180㎡、設計は乾久美子建築設計事務所が手がけた。

広島県土木建築局の的場弘明さんによれば、宮島口には多くの課題が山積していたという。

まず建物や護岸の老朽化に加え、フェリー業者が2社あり、乗船場が離れているうえ、栈橋まで屋根がなく、待合室も不足。さらなる問題は交通渋滞で、フェリーターミナルの駐車待ち車両による渋滞がJR宮島口駅とターミナルのあいだを走る国道にまでおよぶ事態を招いているそうだ。なにしろ、ここ数年の間観光客数は400万人以上というから、1日平均1万人以上イベントやコンサートが終わっ

た直後の会場周辺のような混雑が日常茶飯事と考えると、尋常ではない。

こうした状況を改善し、この地区をただの通過地点ではなく、観光客が滞在や回遊をしやすい宮島の玄関口にふさわしいにぎわいのある場に転換するために、今後もターミナルと連続する広場の整備や、広電宮島口駅や道路の移設など、工事は続く。しかし、新しい街の象徴ともいえる新ターミナルが完成したことは、関係者にとって大きな節目にちがいない。

## 2枚の大屋根で海辺の動線を演出

ターミナルの設計にあたっては、広島県が競争入札ではなく、すぐれた提案をした建築家・設計事務所を選定する公募型建築プロポーザルを実施した。参加資格要件をできるだけ撤廃し、公開ヒアリングを行うなど、独自の「広島型建築プロポーザル」



▶ 旅客ターミナルを上空から見る。2枚の大屋根は遊歩道「海辺の回遊軸」に沿って、ゆるやかなカーブを描く。

◀ 海から見る。背後の街並みに調和するように大屋根は緩勾配で設計。屋根と街並みに奥行きを生み出している。



## 厳島神社への玄関口に観光の拠点となる新ターミナル

方式を取り入れており、これもその一環。とくに今回は名だたる建築家が二次審査に残り、公開ヒアリングに際して入場整理券が配られたことでも話題を呼んだ。

選定された乾さんの案は、おらかな大屋根の下に複数の小さなスペースを入れ子状に配した、半屋外空間が多い開放的なプラン。屋根を2枚に分けた細長い形状にした理由について乾さんは、西の駅側から来る人々に対してはゲートのように受けとめる一方、海岸線沿いに将来「海辺の回遊軸」という遊歩道が整備される可能性が大きいことから、遊歩道を歩いてきた人がそのまま、屋根と屋根のあいだの裂け目を通り抜けられるよう、動線をつなぎたかったからだと言ふ。また、入れ子状の構成については、次のように語る。

「ターミナル駅などではよくエキナカといわれるように、箱の中は店がたくさんできてきてにぎやかだけど、箱の外と断絶ができてしまう。そうならないように、

屋根はかけても『外』にするところが重要だと思いました。また、屋根の下にちりばめる小さな箱はまわりの商店と同様のスケールにすることで、ターミナルと街がつながり、観光客も中と外を自由に回遊できるのではないかと考えたんです」

乾さんの提案が評価されたポイントは数々あるが、こうした周辺の人の流れや周辺地域との一体感を考慮した点が大きかったようだ。

## 年間400万人の観光客を受け入れるトイレ

「三次元の曲線が多く施工が非常に難しいので、設計中は本当にできるのかなと心配してましたが(笑)、とくに南西側から北東側を見通したときの感じがすごくいいですね」という的場さんの言葉どおり、遊歩道との連続性を考慮し、屋根の裂け目に沿って広がる空間は、なんともびやかで気持ちがいい。トイレ

ターミナルの内観



④道路標識のように目を引くサイン。施設内5カ所に設置した。

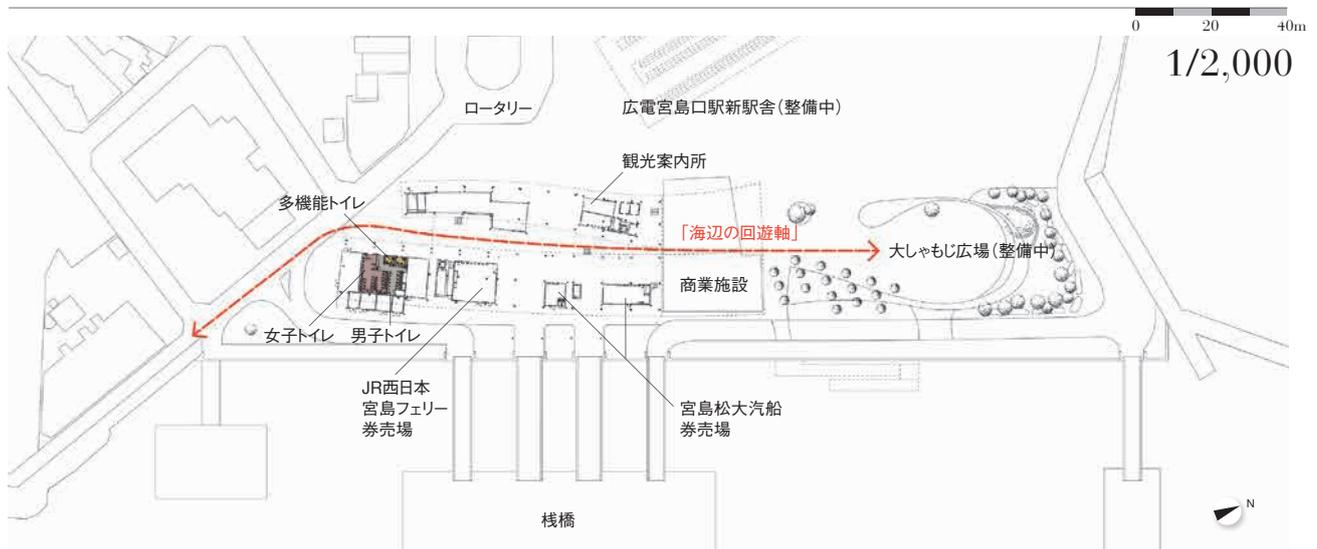
⑤トイレ前のスペースを利用したベンチ。壁面と同じ木材で統一。

⑥2階から待合スペースを見る。立ち位置により屋根の見え方が異なる。

⑦大屋根を支える柱が立ち並び、その足元に小スケールの各機能を配置。



配置図



男子トイレ



小便器は掃除しやすい壁掛式。清潔感がある白でデザインを統一した。

多機能トイレ



ベビーシートやオストメイト対応の器具を設置し、多様性に配慮。

女子トイレ



④混雑緩和のため、限られたスペースに16室のブースを確保した。

⑤洗面コーナー。背後にスペースがあるため混雑時も待ちやすい。

トイレ平面図



# 宮島口 旅客 ターミナル



## 建築概要

所在地	広島県廿日市市宮島口1-11-1
事業主	広島県
主要用途	旅客ターミナル
設計	有限会社乾久美子建築設計事務所 構造：小西泰孝建築構造設計 設備：株式会社森村設計 照明：(屋外照明) 有限会社シロウスライティングオフィス (屋内照明) 大光電機株式会社 TACT サイン：株式会社菊地敦己事務所
施工	建築：広成建設株式会社・ 広電建設株式会社 特定建設工事共同企業体 電気：大新電工株式会社 機械：天満冷凍機株式会社 昇降機： 日本オーチス・エレベータ株式会社
敷地面積	11,685.52㎡(うち旅客ターミナル 建設敷地：4,968.80㎡)
建築面積	2,637.63㎡
延床面積	2,174.39㎡
階数	地上2階
高さ	12.885m
構造	鉄骨造
設計期間	2016年10月～2018年3月
施工期間	2018年10月～2020年2月

## おもなTOTO使用機器

### 男子トイレ／女子トイレ

壁掛大便器セット・フラッシュタンク式	UAXC3CSN
ウォシュレットPS2A	TCF5533AUYS
棚付二連紙巻器	YH702
壁掛ハイバック洗面器	LSB125
クリーンドライ(高速両面タイプ)	TYC420W
ベビーチェア	YKA15R
フィッティングボード	YKA41

### 男子トイレ

壁掛壁排水自動洗浄小便器	UFS900R
--------------	---------

### 多機能トイレ

コンパクト多機能トイレバック(右勝手、左勝手)の2種の仕様)	
UADAK21R1A1ADD1WA、UADAK21L1A1ADD1WA	
クリーンドライ(高速両面タイプ)	TYC420W
ベビーチェア	YKA15R
ベビーシート	YKA25R

レはこの通路沿い、南東側の奥に配置されている。  
入れ子状のスペースは、観光案内所や売店など、用途に応じて柔軟に入れ替えることができないため、大勢の関係者の要望に合わせて何十パターンも配置を考えたと言笑する乾さんだが、トイレの配置は当初から変更はなかったとのこと。ロータリー側の正面から入った左手には商業施設が併設されるため、自然と右奥になったそうだ。

トイレに関する県からの要望は、ともかく個数を確保すること。「島に渡るとトイレが少なく大変で、とくに女子用はどこも並んでいます」と的場さん。宮島に渡る前にトイレに行つてから、ゆっくり観光してもらおうべく、空気調和・衛生工学会が提案する器具数の算定法に基づき、女子用は最高レベルのサービレベル1、男子用はレベル2の器具数を用意。徹底して真っ白くニュートラルな空間に、ずらりと多数の白い便器や洗面器が並びさまは壮観だ。



乾久美子  
建築設計事務所  
建築家

## 乾久美子

Inui Kumiko



広島県  
土木建築局  
管轄課課長

## 川島 満

Kawabata Mitsuru



広島県  
土木建築局  
総括官(建築技術)

## 的場弘明

Matoba Hiroaki

## 道路標識のよう なわかりやすい サイン計画

さらに、気を配ったのがサイン計画。「いろいろな担当の方から、来訪者が多く大変だというお話をうかがったので、このサインでわかるのかと心配で、サインの配置のために模型をつくったり、3Dモデルにもサインを入れ、内部を歩きまわったりして検証したんです。最終的に、施設内の5カ所にビクトサインをちりばめました」と乾さん。道路標識を参考にデザインしたというサインは確かに視認性が高い。

広島県土木建築局の川島満さん曰く、「建築家が手がけた建物のサインのなかには、カッコいいけど色が目立たずわかりにくいといった例がなきにしもあらずですが(笑)、乾さんのサインはとてもわかりやすく、それでいてちゃんとデザインされているので、今日見てあらためて感心しました」。

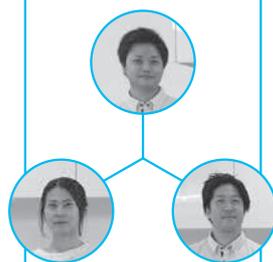
前述のとおり、今後も整備のための工事は続くため、一新された街の全容が見られるのは少し先になりそうだが、宮島観光に訪れた日本人はもちろん、海外の観光客にとって、新しい建築の魅力だけでなく、日本の公共トイレのすばらしさも体感してもらおう場になるだろう。

## 新商品開発物語

### システムキッチン

# 「THE CRASSO」

2020年9月発売



New Product Story  
Interview with  
Yamano Yohei,  
Yamamoto Tomoko  
and  
Ohata Shogo

「あ、明るい！」TOTOのショールームで「THE CRASSO(ザ・クラッソ)」のクリスタルカウンターを「覧」になって、そうおっしゃるお客様が多くいらつしやるそうです。2016年の発売以来、「ノイズレスデザイン」で「好評をいただいている「ザ・クラッソ」をフルモデルチェンジ。さらに輝きを増したNEW「ザ・クラッソ」の開発を担当した3名のスタッフが、その思想と魅力、そして秘められた苦労について語ります。

# 一枚のカウンターが、リビング空間を変える。

## ようこそ、光のキッチンへ。NEW THE CRASSO

### 明るく清潔感あふれる クリスタルカウンター

——クリスタルカウンターは、以前から評判がよいそうですね。

大畑将吾 従来品でのアンケートで94%のお客さまにご満足いただけているという結果が出ていますが、「清潔感がある」とか「明るさを感じる」というお声が多いですね。クリスタルカウンターの特長が、そういう評価につながっているのだと思います。

——何が違うのですか。  
大畑 素材の中に気泡が入ることのないよう、特別な成形技術でつくってあります。だから透明素材のよさが生きてくる。これは非常に難しいことで、国内ではT

O TOにしかできないんですね。

山野洋平 まだ輸出はしていませんが、ショールームにいらつしやった外国のお客様が、このカウンターだけでも帰りたい(笑)とおっしゃっていました。デザイン面だけではなく、素材の特性として熱や衝撃に強く、汚れが染み込みにくく、ふき取りやすい。使い勝手も兼ね備えた、TOTOの自信作です。

### クリスタル カウンターに 磨きをかけた

——そのクリスタルカウンターが新しくなりました。

山本友子 従来のカウンターは、後ろにバックガード、手前に水返しといった形状でした。2016年にザ・クラッソが

新登場したときにそれらを取り払って、ノイズのない一枚の薄い板のような形状にしたんです。

山野 そして今回は、ノイズレスデザインを進化させようということで、カウンター下にあった影のように見える板材(スリットアングル)をなくして、思い切りシンプルなデザインに変えました。なかでも一番力を入れたのが、明るさ、清潔感の強調。クリスタルカウンターのよさをとことん生かす取り組みです。

大畑 クリアエッジ仕上げといいますが、クリスタルカウンター(単色)の小口部分に面取りをして、磨き込みました。カット面から入った光が裏側の塗装面にあって反射することで、エッジラインが輝きを放ちます。

山本 世の中にあるさまざまな透過素材を調べて、仕上げを試してみました。ど

れが求めている明るさや清潔感に一番近づけるか。検証していくなかで、ようやくクリアエッジという手法にたどり着いたんです。

大畑 小口の角度や幅をどうするか。それを見つるのが大変でした。磨くだけでもものすごい手間ひまがかかるんですが、0・1mm単位でバリエーションをつくり、そこに光をあてて確認する。そうした作業の繰り返しは気の遠くなるようなものでした。

### ノイズレス デザインも進化

——今回はフルモデルチェンジということですが。

山野 3年半前にプロジェクトが立ち上がり、いったんゼロに戻すところから議

TOTO株式会社  
キッチン・洗面事業部  
キッチン・  
洗面開発第二部  
キッチン開発グループ

## 山野洋平

Yamano Yohei

やまの・ようへい / 2004  
年にTOTO入社。シス  
テムキッチンの新商品開  
発および開発プロセス  
の構築に従事。17年よ  
り今回の新商品の企画  
立案などを推進。

TOTO株式会社  
キッチン・洗面事業部  
キッチン・  
洗面開発第二部  
キッチン開発グループ

## 大畑将吾

Ohata Shogo

おおはた・しょうご /  
2013年にTOTO入社。  
総合研究所にて人間工  
学を用いた研究開発に  
従事。19年からキッチ  
ン・洗面事業部。新商  
品ではクリスタルカウン  
ターの開発を担当。

TOTO株式会社  
デザイン本部  
デザイン第一部  
第一デザイングループ

## 山本友子

Yamamoto Tomoko

やまもと・ともこ / 2006  
年にTOTO入社。TOT  
Oテクニカルセンターで、  
BtoBの販売施策などに  
従事。10年からデザイン  
本部。新商品では全体  
のCMFの企画・実装  
に携わっている。

論を始めました。日本の台所の変遷や競合との差別化、TOTOの強みなどすべてを検証して、その結果として、あらためて従来の「ノイズレスデザイン」を受け継ぎ、それをさらに進化させることそして各機能を徹底的に磨きあげることにしたのです。

——日本の台所の変遷ですか。

**山野** 日本の台所というのは、土間から始まってだんだん家の内部に移動してきました。そして現在では家族が集う生活空間の重要な部分となっています。実際、対面型のキッチンを選ぶお客さまがどんどん増えているのですが、単に調理の場ということではなく、生活の一部として、より明るい生活、ゆとりある暮らし、コミュニケーションを育む場にしていきたい、そう考えました。

——「明るい」という言葉がまた出てきました。

**山野** 濃い色の重厚なカウンターというのも世の中には結構ありますが、私たちはキッチンを明るく、清潔感のあるものにした。そして、何より家族の笑顔が似合う場所になりたいと思っています。

**大畑** クリスタルカウンターが、その明るいキッチンの核となるわけです。

——ノイズレスデザインというのは。

**山本** 生活空間を考えると、部屋の構造である柱と梁、水平垂直が基調になっています。その基調に合わせたデザインによって、空間にとけ込むキッチンにする。L型の水栓、シンクなどもオリジナルの

デザインですが、使いやすさを追求しながらその場になじむ設計を目指しています。

——主張しないデザインということですか。

**山野** 家具でもドアノブでも、何か突出したのが見えると、妙に気になりますよね。家族が生活する、コミュニケーションしあう。その空間には、刺激的なデザインよりも、あくまでそこにあって自然な、心やすらぐデザインがふさわしい。

TOTOはそう考えているんです。

**山本** 最近では家具や電気製品などもシンプルで、落ち着いたデザインのもの主流になってきています。

住空間の中では、個性の強いものがそれぞれ存在を主張すると、バランスをとることが難しくなってしまうからではないでしょうか。

——なるほど。

**山野** 今回、全体としては明るくシャープなイメージに仕上げたのですが、カウンターとキャビネットの一体感を向上させるなど、色合いや形状のまとまり感、美しさもことごと追求しています。

**山本** ご家族の好みやお部屋の仕様に合わせて選べるように、カウンターやキャ

ビネットの色、素材を多彩に用意しています。

今回は扉の基材の厚みを統一することで、どの色、どの素材をお選びいただいても、同じイメージに仕上がります。さまざまな色、素材がきれいに納まるのもノイズレスデザインの特長といえるでしょう。

**山野** 色は水栓にまでこだわっています。通常は鏡面のクロムめっきですが、今回



写真プラン：希望小売価格(税・工事費別)  
キッチン部 ¥2,788,000 周辺ユニット部 ¥1,111,700

## New THE CRASSO

おすすめプラン

システムキッチン  
「ザ・クラッソ」

85.5万円~  
(税・工事費別)

※I型2,550mmの場合となります。

は金属の質感を強調する「ブラッシュ加工」を施した、程よいツヤ感のニッケルとブラックが加わり、空間になじむ3タイルから選べるようにしました。

——細やかな工夫を凝らしていますね。

**山野** フレーム類をなくし、取っ手もスリム化。またコンロの油とびを防ぐクリーパーティションに入れたグラデーションは、鍋などを目隠しする役割を果たします。そこまでやるのかという声もあり

ましたが(笑)、これもノイズをなくす工夫のひとつです。

また、工場の生産ラインをすべて見直すなどして徹底的なコストダウンを図り、価格も従来水準を維持することができました。

使いやすさ

機能も

いちだんと向上

——使い勝手やお手入れなどの機能面は。  
**山野** 収納は、キャビネットをカウンターの奥行きいっぱいまで広げて、従来品より引き出し1段分の面積を増やしました。また取り出しやすい上段によく使うものを置けるようにしています。

包丁、まな板から調味料に至るまで、ここにはこれを置けばいいんだと直感的にわかるようなしつらえにして、使いやすくしました。

——調理がラクになりそうですね。

**山野** そのほかゼロフィルターフードecoは10年間ファンのお手入れが不要(\*)になって、さらにお手入れが簡単になりました。スクエアすべり台(傾斜)を設け、排水口に3つ目のすべり台(傾斜)を設け、排水目皿に抗菌(\*)・防カビ(\*)樹脂を採用することで汚れにくさが向上しました。

TOTO独自の「きれい除菌水」生成器もふくめ、清掃性でもみなさまにきつとご満足いただけるはずですよ。

# 進化のポイント

Point. **3**

## そのほかの要素も進化

### 1 水もゴミもススイ流れる「スクエアすべり台シンク」



従来の傾斜3度のシンク底とゴミが1カ所に集まる網かごに加え、排水口にも傾斜を設けました。排水目皿には抗菌(\*)・防カビ(\*)加工を施し、「3つのすべり台」との合わせ技で、シンク内のきれいが長続きます。

### 2 使いやすさにこだわった「たっぷりラクラク収納」



使いたいものがサッと取り出せる大容量の収納を手元にまとめました。従来品より引き出し1段分の面積が増加。小さな調理道具や調味料もすっきり整頓できます。

### 3 10年間ファンのお手入れ不要「ゼロフィルターフードeco」



撥油コートを施したファンが回転することで、換気量低下の原因になるファンの付着油を軽減。面倒なファンのお手入れをしなくても、10年間継続して使用できます(\*)。

### 4 多彩なカラーと上質な素材展開



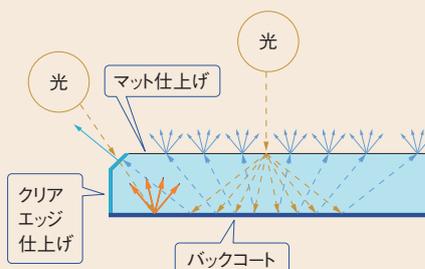
質感にこだわったカウンターや扉、水栓、レンジフードなど、豊富なアイテムを自由に組み合わせ、空間にぴったり合うカラーや素材を選ぶことができます。

Point. **2**

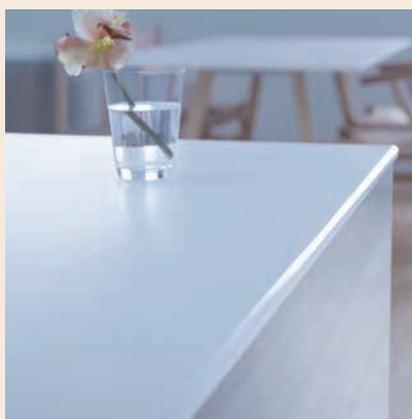
## クリスタルカウンターの輝きが変化

従来のクリスタルの透明感、光をまとう美しさはそのままに、クリアエッジ仕上げを施すことでさらに美しく進化しました。

### クリアエッジ仕上げの仕組み図



自然光や照明など、あたる光によって表情を変えるクリスタルカウンター。カウンター端部のクリアエッジ仕上げが輝きを放ち、空間に明るいアクセントを加えます。



クリアエッジ仕上げによるクリスタルカウンターの輝き

Point. **1**

## カウンター形状の進化

カウンターとキャビネットの形状を見直すことで、カウンターとキャビネットの段差と隙間を限りなく小さくし、ノイズレスデザインをさらに進化させました。

### 2005年

水返し、バックガードがあるカウンター。



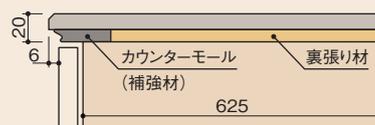
### 2016年

水返し、バックガードを取り払い、すっきりとしたカウンターを実現。カウンター下には影のように見える板材(スリットアングル)。



### 2020年

スリットアングルをなくし、カウンター前面に見える補強材を小さくするとともに、カウンターとキャビネットの取り付けを見直すことで、さらなるノイズレスを実現。



\*くわしい条件などは、TOTOホームページやカタログをご確認ください。

カタログをご覧ください→

カタログのご請求 >>> FAX **093-571-0999**



詳細はカタログ「システムキッチン ザ・クラッソ」(カタログNo.1950)をご覧ください。カタログをご希望の方は、本誌に同封の「TOTO通信2020年秋号アンケート用紙」にご記入のうえ、ファクスまたはウェブにてお申し込みください。

お問い合わせ >>> ナビダイヤル **0570-01-1010**

商品の技術的なご質問は、技術相談室ナビダイヤルまでお問い合わせください。

# News File

TOTOの最新情報

## 4 TOTO News

### 『知財功労賞・デザイン経営企業』受賞



↑『知財功労賞』の賞状。

TOTOは『知財功労賞』の経済産業大臣表彰において、「デザイン経営企業」を初受賞しました。世界に通じるすぐれたデザインを生み出し、デザインの視点や思考を取り入れた経営を実践しながら知的財産を有効活用している企業が「デザイン経営企業」として表彰されます。①デザインを事業戦略の中核に位置付け、経営層が商品デザイン決裁に強く関与していること、②機能とデザインを高度に融合した、お客さま満足度の高い商品を創出していること、③世界の各拠点に配置した模倣対策キーパーソンを中心に、模倣対策活動を推進していること、が評価され今回の受賞に至りました。



初代「ウォシュレットG」。

## 3 TOTO News

### 日本のトイレ文化に革命を起こしたウォシュレットが40周年

TOTOのウォシュレットが発売から40周年を迎えました。「拭くから洗う」へ、トイレの生活文化を変えるための試みは、最適なおしり洗浄の位置も、快適な温度も何もわからない状態から始まり、多くの課題を乗り越えてウォシュレットは世に生み出されました。

発売当初は「おしりだって、洗ってほしい。」というキャッチコピーが新鮮でしたが、今ではあたりまえの生活習慣として根つき、多くの公共施設、オフィスなどにも採用が進み、あらゆる場所で温水洗浄便座の快適さを享受できるようになっています。2019年には世界での出荷数が5,000万台を超え、海外での販売も着実に増えています。

ニュースリリース：  
[https://jp.toto.com/company/press/2020/06/23\\_010566.htm](https://jp.toto.com/company/press/2020/06/23_010566.htm)

## 1 TOTO News

### 6商品が『レッドドット・デザイン賞』を8年連続で受賞

↓『レッドドット・デザイン賞』受賞商品。(裏表紙もご参照ください。)



①ウォシュレット一体形便器ネオレストDH、②瞬間式ウォシュレット(海外向け)  
③ベッセル式洗面器TA、④台付シングル混合水栓GBシリーズ  
⑤台付シングル混合水栓GFシリーズ、⑥在来浴槽フローテーションタブ(海外向け)

「ウォシュレット一体形便器ネオレストDH」「ベッセル式洗面器TA」「台付シングル混合水栓GBシリーズ/GFシリーズ」など6商品が国際的に権威のある『レッドドット・デザイン賞2020』(\*)を受賞しました。TOTO商品の受賞は8年連続となります。今回は世界60カ国6,500以上の応募から、著名な専門家で構成

された審査員が審査を実施。デザインと機能の高度な融合を目指したTOTOの“ものづくり”が高く評価されました。

\*レッドドット・デザイン賞：1955年から続く国際的に権威があるデザイン賞。主催はドイツ・エッセンの「ノルトライン・ヴェストファーレンデザインセンター」。デザインの専門家が革新性、機能性、品質を厳正に審査し認められた商品に与えられます。



## 2 TOTO News

### 『ネオレストEX』が『建築設備技術遺産』に認定

↓ネオレストEX。



TOTOミュージアム所蔵の「ネオレストEX」が、『2020年度建築設備技術遺産』に認定されました。ネオレストEXは「便器でない便器を作る」というテーマのもと、機能・デザインすべてにおいて最高水準の満足を提

供できる次世代トイレを目指して開発されました。今回の認定は、「タンクレス便器」を実現しトイレ空間の自由度を高めたことから、建築設備として価値ある製品と認められたことによるものです。

TOTOからのお知らせページです。  
イベント、新商品、最新情報など知っておいていただくと  
お役に立つ情報を心がけています。  
合わせてご注目ください。



『TOTO通信』  
送付先の変更などはこちらへ  
ご連絡ください。

Tel 093-563-2055

お問い合わせはTOTO通信  
データ管理室まで



アクセス／●東京メトロ千代田線  
「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分  
●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅  
下車徒歩6分 ●東京メトロ日比谷線  
「六本木」駅下車徒歩7分 ●東京メ  
トロ銀座線・半蔵門線・都営地下鉄  
大江戸線「青山一丁目」駅下車徒歩  
7分

### Bookshop TOTO 2F

所在地 東京都港区南青山  
1-24-3  
TOTO乃木坂ビル2階  
電話 03(3402)1525  
定休日 月曜日・祝日・  
「TOTOギャラリー・間」  
休館中の土曜日・  
日曜日・夏期休暇・  
年末年始

### TOTO出版 2F

所在地 東京都港区南青山  
1-24-3  
TOTO乃木坂ビル2階  
電話 03(3402)7138

全国の書店でお求めください。直営  
店Bookshop TOTOでもお求めにな  
れます。書店遠隔の方はお問い合わせ  
ください。

### セラトレーディング B1・1F

所在地 東京都港区南青山  
1-24-3  
TOTO乃木坂ビル  
電話 03(3402)7134  
(東京ショールーム)  
定休日 月曜日・祝日・  
夏期休暇・年末年始

#### 展覧会のお知らせ

TOTOギャラリー・間で  
展覧会をします

### 『中川エリカ展 JOY in Architecture』

建築家の登竜門とされる  
JIA新人賞、吉岡賞、住宅  
建築賞金賞など数々の賞  
を受賞し、活躍の場を広げ  
ている若手建築家の中川  
エリカ氏。周辺環境や人間  
の営みを巻き込んだ「建築  
の組み立て方・フレーム」  
を探究する姿勢と、本展覧  
会を「建築そのもの」として  
表現する中川氏の挑戦を  
紹介します。



会期 2021年1月21日(木)～  
3月21日(日)



<https://jp.toto.com/gallerma>

#### TOTOギャラリー・間

所在地 東京都港区南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル3F  
電話 03(3402)1010  
ファクス 03(3423)4085  
開館時間 11:00～18:00  
休館日 月曜・祝日、ただし  
2021年3月20日(土・祝)は  
開館  
入場料 無料

<https://jp.toto.com/publishing>

#### TOTO出版のお知らせ

Book

### 『ふるまいの連鎖： エレメントの軌跡』



同封の  
「TOTO通信アンケート」に  
お答えいただいた方の  
なかから、  
抽選で10名の方に  
プレゼントいたします。

監修 門脇耕三  
定価 1,500円+税  
体裁 168×210mm、ソフトカバー、  
208ページ  
発行 2020年8月

第17回ヴェネチア・ビエン  
ナーレ国際建築展日本館  
カタログ。日本の木造住宅  
を、ヴェネチアまで移動させ  
て展示する。移動のために  
解体された住宅は、日本か  
らやってきた建築家と職人  
によって、現地で別の姿へ  
とつくり直される。ここで展  
示されているのは、古い材  
料と新しい材料が混在し、  
幾人もの建築家や職人の  
創造性が重層したキメラ  
的な混成物にほかならな  
い。あるいは、さまざまなふ  
るまいの連鎖とエレメントの  
軌跡の結果としての建築  
である。

#### セラトレーディングのお知らせ

### 人気の洗面器 「TR2」シリーズに トレンド色を 追加しました

セラトレーディングでは、イタ  
リア・SCARABEO(スカ  
ラベオ)社の洗面器「TR2」  
シリーズへ、水まわりトレンド  
でもあるマットブラック・マッ  
トホワイトを追加ラインアップ  
いたしました。陶器でありな  
がら薄いリムとシャープな  
エッジ、直線ラインの美しさ  
が人気のシリーズ。サイズ  
の異なる2品番(W450・  
W600)をご用意していま  
す。スタイルを選ばないシン  
プルなデザインで、イメージ  
に合わせてさまざまな空間  
に採用していただきやす  
くなりました。



TR2シリーズ  
洗面器 SB5108S-37  
希望小売価格:101,000円(税抜)

当商品を掲載した「セラ総合カタ  
ログ2020」はウェブサイト、またはファク  
スにてご請求ください。

WEB: <https://www.cera.co.jp>  
FAX: 03-3402-7185



iF Design Award 2020



ウォシュレットRW/SW (海外向け)  
受賞商品はウォシュレットRW/SWです。※便器除く



壁掛SP便器+ウォシュレットSX (海外向け)



Red Dot Design Award 2020



ウォシュレット一体形便器 ネオレストDH



瞬間式ウォシュレット (海外向け)



台付シングル混合水栓 GBシリーズ  
※カラーめっき品は海外のみ販売



台付シングル混合水栓 GFシリーズ  
※カラーめっき品は海外のみ販売



ベッセル式洗面器TA



在来浴槽 フローテーションタブ (海外向け)



この情報誌には、植林木・森林認証材などを原材料とする環境に配慮した用紙を50%以上使用しています。また、印刷に植物由来のインクを使用しています。

TOTO技術相談室 電話:0570-01-1010 受付時間:〈平日〉9:00~18:00 〈土曜日〉9:00~17:00 (日・祝・夏期休暇・年末年始を除く)  
建築専門家のための情報サイト COM・ET(ネット) <https://www.com-et.com> TOTOホームページ <https://jp.toto.com>

※商品詳細は、TOTOホームページをご覧ください

『TOTO通信』のお届け先などの変更はお客様No.(封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。  
TOTOカタログセンター内 TOTO通信データ管理室 TEL.093(563)2055 FAX.093(571)0999  
\*当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト(<https://jp.toto.com>)をご覧ください。